
平成 25 年度
千葉大学附属図書館
外部評価報告書

平成 26 年 3 月

千葉大学附属図書館

目 次

I. 外部評価委員会報告

II. 評価委員会資料

1. 管理運営	30
1.1. 運営組織	
1.2. 専門部会	
1.3. 耐震改修・増築・機能改修	
1.4. 防災対策	
1.5. 人材育成・研修	
2. 予算・経費	38
2.1. 図書館資料費	
2.2. 図書館運営費	
3. 施設・設備	39
3.1. 延床面積と閲覧座席数	
3.2. 学生あたりの閲覧座席数	
3.3. 収容冊数	
3.4. 利用者用 PC 台数	
4. 学術情報資源	41
4.1. 所蔵資料	
4.2. 電子的資料（電子ジャーナル・電子ブック・データベース）	
4.3. コレクション	
5. サービス	45
5.1. サービス全般	
5.2. リエゾン・ライブラリアン・プロジェクト	
5.3. 図書館提供の Web サービス	
6. 情報発信・広報	56
6.1. 図書館員による研究教育発表等	
6.2. 情報リテラシー教育	
6.3. 学術成果リポジトリ	
6.4. 附属図書館 Web サイト	
6.5. CUFA, CURT	
7. アカデミック・リンク・プロジェクト	65
7.1. レガシーコンテンツ再生プロジェクト	
7.2. オンラインクラスルームプロジェクト	
7.3. デジタルコースパックプロジェクト	
7.4. 「参加する学習」プロジェクト	

7.5.	「教育力」「学習力」向上プロジェクト	
7.6.	情報利用行動定点観測プロジェクト	
7.7.	「新しい図書館員」プロジェクト	
8.	地域・社会連携	71
8.1.	市民への公開	
9.	他機関図書館との連携	74
9.1.	国立大学図書館協会	
9.2.	最先端学術情報基盤（CSI）構築推進委託事業	
9.3.	デジタルリポジトリ連合	
10.	各館特記	80
10.1.	本館	
10.2.	亥鼻分館	
10.3.	松戸分館	
(参考資料)		87
	平成 22 年度千葉大学附属図書館自己点検・評価の達成度	
	国立大学法人千葉大学 年度計画 図書館関係部分抜粋	

はじめに

千葉大学附属図書館では、平成25年12月25日に外部評価委員会を開催した。この委員会は、千葉大学附属図書館外部評価委員会規程により設置されるもので、附属図書館の活動及び運営の状況について第三者の立場から客観的な提言・評価をすることにより、その活動の発展・充実に資することを目的としている。評価対象となる期間は、平成22年度から24年度の3年間である。附属図書館にとってこの期間は、アカデミック・リンク・センターの設置、K棟（旧館）の耐震改修工事、N棟・I棟の増築オープンなど、重要な案件が重なり、激しい変化が起こった時期であった。同時に、附属図書館を支える事務体制も、本部事務局の一部から附属図書館事務部に移行し、再編されている。こうしたさまざまな変化の中で、従来の図書館サービスを拡充しながら、アカデミック・リンクという新たな活動に積極的に取り組んでいくことには大きな困難が伴っていたが、幸いにも、大学改革における先駆的な取り組みとして、内外から高い評価を得ることができた。特に、中央教育審議会大学分科会大学教育部会の答申『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～』に、事例として取り上げられたことは、大きな励みとなった。

外部評価委員会には、江夏由樹一橋大学附属図書館長、小西和信武蔵野大学図書館長、加藤信哉筑波大学附属図書館副館長、市古みどり慶應義塾大学日吉メディアセンター事務長に、委員としてご参加いただいた。まず、附属図書館長と各分館長が各館の現状と課題について報告を行い、その後、各委員による質疑が行われたが、内容は、図書館のミッション、組織体制、図書館経費、本館分館の格差、蔵書構築、人的資源の不足など多岐に渡り、非常に活発な意見交換が行われた。後日作成された評価シートにも、率直かつ真摯なコメントをお寄せいただき、多くの有益なご助言をいただいた。お忙しい中、我々の活動に真剣に向き合ってくださいました委員の方々に、厚く御礼申し上げたい。

最後になったが、これまでさまざまな形で附属図書館をご支援いただいた齋藤康学長をはじめとする学内外の関係各位に深く感謝するとともに、新たな活動に日々果敢に取り組んできた附属図書館事務部のみなさんに敬意を表明する。本報告書が、附属図書館の次の一歩に向けた礎となることを願いながら。

平成26年3月

千葉大学附属図書館長

竹内 比呂也

I . 外部評価委員会報告

委 員

江夏 由樹	一橋大学附属図書館長
小西 和信	武蔵野大学図書館長
加藤 信哉	筑波大学附属図書館副館長
市古 みどり	慶応義塾大学日吉メディアセンター事務長

千葉大学附属図書館

竹内 比呂也	附属図書館長
清水 栄司	附属図書館亥鼻分館長
赤坂 信	附属図書館松戸分館長
島 文子	附属図書館利用支援企画課長
杉田 茂樹	附属図書館学術コンテンツ課長
木下 直	附属図書館利用支援企画課副課長
庄司 三千子	附属図書館学術コンテンツ課副課長
八木 二郎	附属図書館利用支援企画課総務係長
綾田 陽子	附属図書館利用支援企画課アカデミック・リンクグループ専門職員
丸茂 里江	附属図書館学術コンテンツ課学術コンテンツグループ専門職員
高野 厚子	附属図書館学術コンテンツ課亥鼻分館係長
佐藤 啓威	附属図書館学術コンテンツ課松戸分館係長
野原 花子	附属図書館利用支援企画課総務係主任

(設置)

第1条 国立大学法人千葉大学点検・評価規程第4条第1項に基づき、千葉大学附属図書館(以下「附属図書館」という。)の活動及び運営の状況について第三者の立場からの客観的な提言及び評価をし、附属図書館の活動の発展・充実に資するため、千葉大学附属図書館外部評価委員会(以下「外部評価委員会」という。)を置く。

(組織)

第2条 外部評価委員会は、4名以内の委員をもって組織する。

2 委員は、附属図書館の活動に関し識見を有する学外者のうちから、附属図書館長が委嘱する。

(委員長及び副委員長)

第3条 外部評価委員会には、委員長及び副委員長を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選によって定める。

3 委員長は、外部評価委員会を招集し、その議長となる。

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員の欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議の成立等)

第5条 外部評価委員会は、委員の過半数の出席がなければ議事を開くことができない。

2 議決を要する事項については、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

3 外部評価委員会に出席することのできない委員は、書面をもって票決をなし、又は他の委員に票決を委任することができるものとし、この場合には出席したものとみなす。

(委員以外の出席)

第6条 委員長は、必要と認めるときは、委員以外の者を外部評価委員会に出席させ、意見を聞くことができる。

(庶務)

第7条 外部評価委員会の庶務は、附属図書館利用支援企画課において処理する。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、外部評価委員会の運営に関し必要な事項は、外部評価委員会が別に定める。

附 則

この規程は平成25年4月1日から施行する。

日時 平成25年12月25日(水) 13:00～

場所 附属図書館K棟2階大会議室

議事次第

1. 開会 (13:30-13:35)
2. 評価委員自己紹介 (13:35-13:40)
3. 委員長及び副委員長互選 (13:40-13:45)
4. 附属図書館本館報告 (13:45-14:30)
5. 附属図書館亥鼻分館報告 (14:30-14:40)
6. 附属図書館松戸分館報告 (14:40-14:50)
7. 館内視察 (14:50-15:30)
8. 質疑応答・意見交換 (15:45-16:40)
9. 講評 (16:40-16:55)
10. 閉会 (16:55-17:00)

配布資料

1. 千葉大学附属図書館外部評価委員会議事次第
2. 千葉大学附属図書館外部評価シート
3. 千葉大学附属図書館外部評価委員会出席者名簿
4. 千葉大学附属図書館外部評価委員会資料(平成25年12月25日)
5. 平成22年度千葉大学附属図書館自己点検・評価報告書(平成23年2月)
6. 千葉大学アカデミック・リンク・センター評価委員会資料(2013年9月5日)
7. 千葉大学学習状況・情報利用環境調査2012集計報告書
8. 附属図書館利用案内, 千葉大学概要

千葉大学附属図書館外部評価委員会総評

平成 22-24 年度の千葉大学附属図書館の活動についての評価を行った。すべての評価委員が特に高く評価しているのは、西千葉キャンパスの本館で行われているアカデミック・リンク・センターと附属図書館が協同して推進する「アカデミック・リンクプロジェクト」という教育学習支援活動である。全活動が順調に展開され学生に新しい学習が根付いていること、全学的な支援を受け、教員との連携で行われていること、アクティブ・ラーニングの場として他の大学図書館にとっても先進的な事例となっていることなどが評価された。そのプロジェクトの活動に関連する「サービス」、その成果を論文や講演を通して伝える「他機関図書館との連携」に対しても十分な活動がなされているという評価だった。その半面、研究支援の体制の弱体化、十分とはいえない人員体制でのプロジェクトの活動と通常業務の負担の増加を懸念する意見もあった。プロジェクトが多岐にわたっているので、少し内容を整理する、重点目標を定めて進めていく、などの提案も出された。

改善の余地があるとされるのは「管理運営」、「予算・経費」、「学術情報資源」に関することである。管理運営では、附属図書館はアカデミック・リンクのコンセプトに基づいた活動を行っているため、図書館のミッションやビジョンを明示的に定めていないと説明があったが、委員からは大学の目的との整合性、図書館業務のマネジメントサイクルの定着化の観点から、図書館のミッション及びビジョンの策定の必要性を挙げる意見が多かった。また具体的な展開を図書館の内外に知らせるために、数値目標や年次計画を持った方が良いのではないかと改善案が出された。

平成 23 年度に組織改編が行われ、「部長なき組織」となった点をどう評価するかという意見が出たが、附属図書館は、学内の組織と図書館、館長と事務組織の結びつきなどから見ると、特定の部局の下にないことで、学内全体の協力が得られているということだった。それでも委員からは事務組織としての上位の役職の必要性を懸念する声が出ており、将来の体制については引き続き検討する必要があると思われる。

予算・経費に関しては国立大学の平均をやや下回っている状況であり、学生との懇談会などで新しい資料の不足が指摘されていることから、継続的な大学本部への働きかけが必要である。経費に関連して、電子資料の価格高騰・円安・消費税の改定、紙媒体と電子資料など蔵書コレクションのバランスなど、各委員にとっても重要な問題に関心が集まった。千葉大学では経費を集中化せず部局の負担が見えるかたちを取り、教員に電子ジャーナルの必要性の認識を促しているということだった。ただ今後も電子ジャーナルの高騰が続けば、パッケージの見直しなど厳しい選択が迫られるという状況にある。予算的制約は大きいですが、図書館における学術基盤の整備・拡充は大学の研究活動の根幹を支えるものであり、大学執行部の理解を深めていく努力が大事である。また電子資源に対する評価や今後の予算確保の根拠のために、もう少し詳細に利用統計の収集と分析を行うべきという意見が出された。

学術情報資源に関しては電子ジャーナルの導入などは積極的に行っているが、大学規模からすると蔵書冊数は十分とは言えず、蔵書計画の整備が待たれる。コレクションの収集、選

書の際にはプロの目として積極的に教員に関わってもらふ必要があると思われるが、千葉大学では授業資料ナビゲータの作成などを通じて教員と図書館員の連携ができており、資料の選定に際しても教員に相談ができるという点が評価できる。また紙媒体の保存計画については、蔵書計画の長期的展望と電子化の計画を連動させたものを早急に立てるべきという意見が出された。

清水亥鼻分館長と赤坂松戸分館長の報告から、本館と他キャンパスにある分館の間で施設設備、学習支援など学生へのサポートにおいて格差があることが明らかであり、早急に改善が求められる。松戸分館の施設改修の要求を行っていることが報告にあったが、大学への要求を引き続き行うことが必要である。また学生へのサポートについて委員からは、本館で行われているスチューデントアシスタントによる学習支援が優れた活動であるので、このシステムをすべての館に導入できると良いという意見があった。

その他、今後の改善案として、委員から以下のような意見が出された。

- ・学生用の資料購入のための費用とサービス拡張のための人件費を確保し、大学総経費に占める図書館経費及び図書館運営費の割合を、国立大学の全国平均並みに上げる必要がある。
- ・アカデミック・リンクプロジェクトの中で行っている学生の学習環境や情報利用行動の調査は継続的に行い、これを実績として中長期的な計画に生かすべきである。
- ・持続的な図書館業務やサービスを行うための事務組織が強固でなく、予算経費が十分でないため、大学本部へ働きかける必要がある。
- ・利用者が必要とする資料・情報を冊子体資料やデジタル資料の区別なく発見し、直接案内するウェブ・スケール・ディスカバリー・サービスの導入が望まれる。
- ・Webサイトの英語化を進めるなど、留学生に対するサービスを改善する必要がある。
- ・休業期間中の閉館時間が早いので、利用者のニーズに合わせた見直しが必要である。

千葉大学附属図書館は館長の強力なリーダーシップの下、アカデミック・リンク・センターと協同し、先進的な教育支援活動を進めてきた。その活動に対し人員の体制は十分とは言えず、特に部長職の設置を念頭に置いた図書館事務管理機構の検討が必要と考える。国立大学全体の財政状況は厳しく、千葉大学も例外ではないが、附属図書館は学生の規模に見合った図書資料費、運営費の確保を要求していくべきである。また電子ジャーナルは価格高騰や消費税などさらに厳しい問題を抱えているが、研究の基盤となるものであり、その整備には大学全体の協力が必要であると考えられる。

今後は附属図書館とアカデミック・リンク・センターの活動が、学習支援だけでなく研究支援の面でも拡大し、千葉大学の教育、研究に貢献していくことを期待する。

◆評価結果

評価指標	A:非常に良好である	……	十分な活動がなされている
	B:おおむね良好である	……	改善の余地がある
	C:やや不十分である	……	改善の必要がある
	D:不十分である	……	大幅な改善が必要である

1. 管理運営	
A:非常に良好である	●
B:おおむね良好である	●●●
C:やや不十分である	
D:不十分である	

2. 予算・経費	
A:非常に良好である	
B:おおむね良好である	●●●
C:やや不十分である	●
D:不十分である	

3. 施設・設備	
A:非常に良好である	●●●
B:おおむね良好である	●
C:やや不十分である	
D:不十分である	

4. 学術情報資源	
A:非常に良好である	
B:おおむね良好である	●●●●
C:やや不十分である	
D:不十分である	

5. サービス	
A:非常に良好である	●●●●
B:おおむね良好である	
C:やや不十分である	
D:不十分である	

6. 情報発信・広報	
A:非常に良好である	●●●
B:おおむね良好である	●
C:やや不十分である	
D:不十分である	

7. アカデミック・リンク・プロジェクト	
A: 非常に良好である	●●●●
B: おおむね良好である	
C: やや不十分である	
D: 不十分である	

8. 地域・社会連携	
A: 非常に良好である	●
B: おおむね良好である	●●●
C: やや不十分である	
D: 不十分である	

9. 他機関図書館との連携	
A: 非常に良好である	●●●●
B: おおむね良好である	
C: やや不十分である	
D: 不十分である	

10. 各館特記	
A: 非常に良好である	●●
B: おおむね良好である	●●
C: やや不十分である	
D: 不十分である	

◆評価コメント

アカデミック・リンク・センターと附属図書館が協同して推進する「アカデミック・リンク・プロジェクト」は学習のためのコンテンツ・人的支援・空間などを有機的に結合した、新しい学習環境の創造を目指した試みとして高く評価できる。また、今回、その事業が順調に展開していることを確認できた。大学図書館が中核となって推進するこの教育改革プロジェクトは、現在の社会的要請、学生のニーズに積極的に応えようとするものであり、他の大学図書館にとっても先進的な事例となっている。「あかりんアワー」「授業資料ナビゲーターの整備」「デジタルコースパックのための著作権処理」などをはじめとする各種プロジェクトは、他の大学図書館の今後の事業展開にとって貴重な参考となる。「アカデミック・リンク・プロジェクト」が、新たに整備された図書館の優れた施設・設備に支えられていることを強く印象づけられた。また、リエゾン・ライブラリアン・プロジェクトなどを通じて、こうし

た図書館の活動が教員との連携によって進められていることも強調したい。さらに、こうした活動成果が、雑誌論文への掲載・講演活動・講師派遣などにより、千葉大学の図書館員から積極的に他の図書館・研究機関に情報発信されており、その努力は高く評価できる。千葉大学の図書館長・館員は国立大学図書館協会などでの活動に積極的に関与し、他の大学図書館との連携、また、日本の大学図書館全体のなかで指導的な役割を果たしている。総じて、千葉大学附属図書館の活動・運営は高く評価できる。

- ・限られた資源の中で、アカデミック・リンク・センターを核とした先進的で高度な教育学習支援活動を行っていることは、大変高く評価できる。
- ・研究支援の弱体化、職員の業務負担の増加が懸念される。
- ・本館と二つの分館の間で、施設設備及びサービスの面で格差が増大しつつあるように感じた。
- ・持続的な図書館業務やサービスを行うための事務組織が強固ではなく、予算・経費が十分ではないと思われる。

貴館は、図書館管理及びサービスの全領域にわたってバランスのとれた優れた活動を行っており、国内の大学図書館の模範となる先進的な事例として高く評価したいと思います。そのことは、ひとえに図書館長の適切なリーダーシップと優秀で積極的な図書館職員の努力のたまもので、心から敬意を表します。

特に、平成 23 年度以降、「アカデミック・リンク・プロジェクト」を立ち上げ、その活動の一環として、全学の支援を取り付けつつ、図書館増改築を実現したことは大きな成果です。また、完成した新館部分は、学生への学習環境の提供機能を果たし、「アクティブ・ラーニング」の実践の場として見事に結実しています。

図書館活動として最も評価されることは、新館の「ラーニング・コモンズ」の場で提供される「学習相談」です。これまでの図書館サービスの枠を超えた「今、大学に求められる最も重要な機能」のひとつだと思います。学務部門や健康管理センターなどの学内の他の部門との連携のもとに、利用者学生の「課題解決」を図っていく優れた活動だと評価します。

一方、こうした優れた活動が、亥鼻分館や松戸分館においては、必ずしも十分ではないことを遺憾に思います。附属図書館でのサービスレベルを他の分館でも維持できるよう努めていただきたいと思います。

予算・経費面では、全国水準と比較しても若干少ないと思いますが、全学予算の 1%程度の配分が望ましいと思います。引き続き、予算増額のための努力をしていただきたいと思います。

学術情報資源の提供面では、電子ジャーナルの導入など積極的に努められていることは評価しますが、大学規模からすると蔵書冊数等は十分とは言えません。電子資料への移行期に

あることは認めつつも、今なお紙媒体は重要な学術情報資源とされますので、長期的な保存計画を含め、蔵書計画の整備が望まれます。

最後になりましたが、大学図書館の具体的なミッション（使命）の明確化、成文化が不十分と感じられました。どの方向に図書館が進むべきか、図書館の内外に示すことで、すべての活動がより有意義になると思われます。

1.管理運営の体制については、アカデミックリンク立ち上げ等、事情があつて館長が事務組織を統括する形となっていることをお伺いしましたが、学内事務組織での折衝、(どちらかというと学内では図書館は孤立傾向となることがよくあるので、それなりの)認知度のアップ、協力体制の強化のために、事務組織としての体裁は確保されていたほうがよいのではと思いました。館長交代時など将来的に無理や多くの負荷が職員にかかってくるのではないかという余計な心配をしています。

2.多様な国立大学の平均値をベンチマークすることが妥当ではないでしょうし、また、国は千葉大の場合の割合を決めているような気もしますが、大学の使命を達成を助ける一つの組織である図書館としては、図書館資料費、図書館運営費のアップも一つの課題に思われます。十分な学習・研究支援のために資料費確保の見通しや、さらに、サービス拡張のための人件費確保の方策についてお伺いすることができませんでしたが、事業拡大中と見受けられますので、さらなる予算の確保が必要と思われます。

3.松戸など古い施設の悩みもあるかと思われましたが、徐々にやっていくしか仕方がないことですので、現在進められている本館の整備が一段落したところで、整備をされていくことに期待します。特に、格差という言葉が出ていましたので、中長期的な目標を立てて安全で快適な施設・設備の整備を進められることを願います。

4.電子資源は着実に増加していますし、リポジトリへの登録件数も増えています。また、契約中の資源も有効利用されていると思われます。(が、比較する材料が提供されていないので推測です。特に、利用の経年変化や、1論文あたりの費用などといった統計がありませんので、ニーズに適切であるか、費用対効果などを理解できませんでした。)しかし、予算の増額が期待できない場合、学生用の資料が購入できなかつたり、あるいは、電子資源の見直しが必要になると思われるので、その辺への対応策を準備されているのか気になりました。

5.従来から図書館サービスの質は十分保てているように思います。図書館開館時間の延長やリエゾン・ライブラリアン活動からさらなる展開も期待したいと思います。試験期間に開館時間が延長されることは学生にとって喜ばしいと思います。しかし、休業期間中の閉館時間があまりに早いのではないかと思います。

6.リポジトリをはじめ、松戸分館の電子画像公開やウェブサイトのリニューアルなど、情報発信に力を入れています。特に、千葉大にユニークなものを公開されているのは素晴らしいと思います。

7.このプロジェクトは多岐にわたっていますし、未だ道半ばですので、学内でこのプロジェ

クトが大いに評価されるようさらなる関係者の方々のご努力に期待が膨らみます。(学内で賛同者を得ていくことが、欠かせない組織となることに必須の要素であろうと考えられるからです。)一方、この学習支援プロジェクトのためにさまざまな資源が集中していることが想像されますので、学習だけでなく研究支援として千葉大学が図書館に求める期待に対してどう応えていくかも念頭に置く必要があるように思われます。

8.市民への開放は減少傾向から増加に転じています。県立図書館や高大連携も進みそうですので、引き続き市民のための良い図書館サービスを提供してください。

9.千葉大図書館は国大図書館協会ほか多くの図書館関係の活動に積極的に関わっていると思います。今後も日本だけでなく世界の大学図書館をはじめとして、より広い図書館活動への貢献が期待される存在となると思います。

10.それぞれ非常にユニークな専門図書館ですので、より鮮明に専門性を打ち出していける可能性があります。政策的に人が減り、経費も減らされていると思われませんが、課題をどのように克服していくか、千葉大附属図書館全体の問題として問題の解決策をやや長期的な視点で検討されればよいと考えます。

◆改善へ向けての提言

千葉大学附属図書館に限らず、電子ジャーナルの価格高騰・円安・消費税の改訂等の外部環境の変化のなかで、全国の大学図書館は学術情報基盤の整備・維持のための予算を十分に確保することが困難となっている。千葉大学においても、図書館専門部会、学術資料専門部会などのチャンネルを通じて、各部局と協同して、大学の図書・資料の整備を進めているが、その予算的制約は大きい。図書館における学術基盤の整備・拡充は大学の教育研究活動の根幹を支えている。学長・理事等の役員との公式・非公式な関係を強化し、また、大学における附属図書館の位置づけをより強固なものとして、学術資料の整備についての大学執行の理解を深めていく努力が大事であると考えます。

亥鼻分館、松戸分館は千葉大学の医系、また、園芸系の研究教育の基盤として重要な役割を果たしているが、その施設・設備、職員配置等において、図書館本館との間に格差が生じているように思われる。これら分館の施設・設備、学生・院生へのサポート体制の整備・拡充を進めていくことが重要であると考えます。

・大学の目的との整合性、図書館業務のマネジメントサイクルの定着化の観点から図書館のミッションやビジョンの策定が必要である。

・附属図書館の事務部が附属図書館業務やサービスのみならず、アカデミック・リンク・センターの事務を担当していることを考えると、部長職の設置が必要である。

・大学総経費に占める図書館経費及び図書館運営費の割合を、少なくとも国立大学の全国平均まで上げることが必要である。特に学生用資料については、毎年学生1人当り単価 5,000

円の図書が1冊購入できる程度の予算を確保すべきであろう。

- ・老朽化した松戸分館の増改築の予算要求をできるだけ早く行う必要がある。
- ・利用者が必要とする資料・情報を所蔵する冊子体資料や急激に増加しつつあるデジタル資料の区別なく発見し、直接その情報源に案内するウェブ・スケール・ディスカバリー・サービスの導入が望まれる。
- ・留学生に対するサービスを改善するために、附属図書館 Web サイトの英語ページ化を一層進めることが望まれる。
- ・休業期間中の開館時間について利用者のニーズ等を配慮した見直しが望まれる。

図書館経営の要となる図書館事務管理機構について、現システムがベストであるかどうか、引き続きご検討されることを望みます。全学の学術情報基盤としての図書館を独立した一部局とするより、現行のような全学の支援を受けやすいシステムにするほうがよいという見解も理解できますが、要求の窓口としての上位の役職(事務)は必要ではないかと思われま

す。亥鼻分館、松戸分館におけるサービス格差については、定員増や予算面、施設面などの困難な点もあるかとは思いますが、現行の制約のなかでも工夫できることはあるのではないかと思われま

す。たとえば、「学習相談」のスタッフ配置などは、大きな予算措置を伴わずに実行可能なように思われま

すので、格差是正のために取り組まれるよう望まれます。

紙媒体の保存計画については、蔵書計画の長期的展望の下に、電子化計画とも連動させ早い機会に策定すべきと考えま

す。同時に、学内に所蔵される蔵書の全国総合目録データベース(NACISIS-CAT)への反映も、もし未整備のものがあるとしたら進めていただきたいと思

い

ま

す。

- ・大学の使命に対して図書館はどう貢献するかということをもう少し明確に打ち出し、さらにそのための方策として中長期計画を立てるなどして、計画的に課題を解決し、図書館をアピールしていく必要があるように思われま

◆その他コメント

- ・千葉大学附属図書館が定期的に「自己点検・評価報告書」を取りまとめ、さらに、外部評

価委員会からの提言・評価を求め、自らの活動・運営について一層の発展・充実を目指していることは高く評価できる。他の大学図書館においても、こうした自己・外部評価を広く実施していくことの重要性を、今回、あらためて認識した。

-
- ・次回に外部評価を実施する際には、以下の点に留意していただきたい。
 - ①外部評価委員に対する資料の送付は、遅くとも委員会開催の3週間前に行うこと
 - ②外部評価委員に送付する資料は完成版とし、修正等は当日配布の正誤表の程度に留めること
 - ③評価期間に対応した自己点検・評価報告書を作成すること

・図書館を支えるのは、図書館職員です。貴館には全国的にも活躍する優れた図書館を数多く輩出されていますが、引き続き優れた図書館員の確保と育成に努めていただきたいと思います。

・アカデミックリンクプロジェクトが他部署、教員、図書館員、学生の協力によってさらに発展し、千葉大の学習を支援することに貢献できることに期待しています。学習支援と研究支援のバランスをどのようにお考えでしょうか。千葉大は日本における研究をリードされている大学の一つに違いないので気になりました。人的資源の余力があるのか、あるいは、どうアカデミックリンクプロジェクトと研究支援と折り合いをつけるかなど。

・図書館長が強いリーダーシップを持って事業を進められているので図書館員としてある意味羨ましい気がします。しかし、逆に図書館員がもっともっと館長を使えるときに使い倒して(利用して)、しっかりとした基盤を作っておくことも求められると思います。大学図書館員や大学図書館が今何をすべきか、将来に向かって何をどうしていくか、館長より先に突っ走って欲しいと思います。

外部評価委員会質疑応答要旨

議長：この質疑応答については、報告書として取りまとめます。まず何かご質問等がありましたら、お願いします。

評価委員：この評価の期間は、平成22年度から24年度を中心と考えてよいでしょうか。それとも現在形として24年度を中心にするのでしょうか。

館長：平成22年度から24年度です。

評価委員：附属図書館のミッションやビジョンというものは定めてあるのでしょうか。

館長：明確には定めておりません。

評価委員：千葉大学の中期目標とか年次計画を拝見したのですが、教育、研究、社会連携を大学の目的にされているように思いました。図書館としてそれらの3つの大学の目的に対するエフォートについて、例えば研究が40%という割合などは考えていらっしゃるのでしょうか。

館長：明確に数値として目標は定めておりません。キャンパスによって性格が違いますので、全体として決めるのは難しいだろうと考えています。西千葉においては、アカデミック・リンクという枠の中で学習支援に特化した活動を昨年から行っているのですが、研究に対するサポートが薄くなっているということは自覚しております。例えば機関リポジトリに対する取り組みがやや後手に回っているという面があるのは事実です。来年度まではアカデミック・リンクというプロジェクトを動かしていくというのが、図書館にとって非常に大きな課題となっており、この領域を重要と思っています。亥鼻分館、松戸分館は、西千葉よりも大学院生が多いため、サポートの体制として大学院生に特化した形の活動が多いのではと考えております。

評価委員：図書館のミッションということについては明示されたものがないということでしたが、5か年計画など大学の法人の計画に合わせて、例えば平成24年度について、図書館はこういう重点目標を立てましたというのがあって、その重点目標に個別にサービスについてなどの数値目標がおありになるのではと思うのですが。

館長：中期計画の中で年次計画についてはいくつか提示しております。

評価委員：これ以上詳しいものはないのでしょうか

館長：これが大学全体として認められている年度計画であって、これよりも詳細なものを図書館は持っていないということです。

評価委員：管理組織の中で、情報部がなくなって、課長二人の事務組織になっていて、図書館は独立できるとおっしゃいましたが、千葉大学の事務機構の中で、図書館はどこにも所属せず、館長がトップで事務組織は二人の課長ということになるのでしょうか。部長会などは誰が出るのでしょうか。

館長：部長会や役員打ち合わせなどには出られません。

評価委員：それはちょっと弱点ですね。

館長：弱点といえば弱点です。

評価委員：教員組織として、大学の管理運営全体には館長がお出になればよいと思いますが、事務機構は誰かが出て、代弁しないとイケないのではないのでしょうか。私は同じような苦勞をたくさんしているので、その辺が気になっています。また、予算要求などのルートはどうなっているのでしょうか。

館長：学内の事務協議会には両課長とも出ています。予算折衝には課長が出ます。必要に応じて、館長がコミュニケーションをとっているというのが現状です。

評価委員：私もガバナンスのことを疑問に思っていました。部長なき組織はよかったのか悪かったのかということが最初に気になりました。

館長：図書館ないしアカデミック・リンク・センターが特定の部の下にあると、他部からのサポートを求めるのが難しいと思っております。特にアカデミック・リンク・センターに教務学務系の様々な活動が出てくると、学務部の関与というのが必要になってきます。以前の組織だと図書館は情報部の下ということで、情報部長は動きますが、学務部長からすれば関係がないととらえられる可能性があります。現状では、学務部と様々なコミュニケーションをとっており、アカデミック・リンク・センターが展開している学習支援に対する様々なサポートが得られているのは事実です。

評価委員：千葉大学では学生さんとのコラボをいろいろやられていると思いますが、学生さんから意見を聴くということを実際にお考えになっておられますか。

館長：この図書館を新しくリフォームするときには館長と語る会を1回やりまして、学生の声を聞きました。ただ、こういう場に集まる学生はクレーマータイプが多いということがあり、今のサービスの良いところ、今のサービスに対してどういうところを評価しているかが分からず、むずかしいと感じました。千葉大学では学部研究科ごとに学長と学生の懇談会が設定され、そこに必ず図書館の課長ないし副課長が出席して、学生から寄せられた質問、意見に対して可能な限りそこで答えるということをしています。アカデミック・リンク・センターでも、学生アシスタントとして働いている学生を中心に、学長、教育担当理事との懇談会を昨年行い、今年度も行う予定です。

評価委員：予算について、大学総経費に対する図書館の資料費の割合が0.7%というのは、実際のところ千葉大学さんにとって十分でしょうか。

館長：全く不十分です。新しい資料があまりに少ないということが、学生懇談会で学生からクレームとして出ます。市立図書館の方が新しい本がいっぱいあるということです。

評価委員：国立大学の平均よりほんの少しですが低いということに対して、何か手当てはあるのでしょうか。

館長：毎年各部局と学長・役員との懇談会があり、そういった状況についてアピールしています。千葉大学は旧六という旧制の官立医科大学のあった六つの大学のグループ、千葉、新潟、金沢、岡山、長崎、熊本とよく比較されますので、旧六と比べた千葉大学の予算の状況を説明して、これでは具合が良くないと言っています。

評価委員：私は医学部が長かったので、分館の活動に親近感を感じます。本館がどんどん発展してきて、分館と格差ができ、いろいろ切ない部分があるということも分かります。でも貴重な資料があるのは、これからも大事にしてほしいと思います。学生さんは、自分の大学でもキャンパスを移ると差を感じるという意見が多いものです。すぐに新しい図書館にするのは難しいと思いますが、先生方のご協力を得て、学生さんに専門分野のサポートができる図書館として展開されることを願っています。

議長：私は最初に全体の組織図が目にとまりました。国立大学における教員組織と事務組織の関係が昔のようなきれいな図式にはできないというご苦労はよく分かっております。私の質問は、予算、ひとつは一番頭が痛い電子ジャーナルの高騰のことで、千葉大学の場合は、図書館専門部会という委員会が諮問機関であり、図書館長にまかされているところが、大変だと思ったりいいなと思ったりというところなんです。私のところでは全学委員会ですので、各研究科が強烈に意見を持ってくるため、私が交通整理をしないとイケません。私のところは、文科系の中でも非常に電子ジャーナルに頼って研究を進めているところと、冊子媒体、紙媒

体中心のところがあり、財布の中身がわずかということで、ストックとフロー、それからどこにアクセントを置くかということに苦勞することがあります。千葉大学の場合は医学部系列と園芸学部は分館ですが、西千葉の本館は理科系もあるし文科系もあり、交通整理が大変だと思うのですが、そのあたりのご苦勞と方針がありましたらお聞かせください。

館長：図書館専門部会はサービスに関する諮問機関と申しましたが、もう一つの学術資料専門部会は決定機関になっております。千葉大学は電子ジャーナルの経費を集中化しておらず、電子ジャーナルを整備していくための経費を全学的な学術基盤資料費として各部局から拠出させていただくというスタイルを維持しています。7割を教育研究基盤校費により各部局、センターから控除し、残りの3割は各部局の教員数で按分するが、文系部局については教員数に1/4をかけ、理系のセンターは1/2をかけるというやり方で、若干文系部局の負担に配慮する形にしています。これが決められたとき、大変な議論があって決まったと聞いております。前館長は経費を集中したほうが良いという意見でしたが、私は、集中化してしまうと、各部局の教員の電子ジャーナルに対する意識を悪い方向へ変えてしまう可能性があると思っています。つまりジャーナルというのは黙っていても与えられるものだと思う可能性がありますので、あくまでも部局で経費負担いただくスタイルは変えるつもりはありません。今年2億3千万円、来年は2億7千万円くらいになりますが、そこまでは各部局の先生方はがんばりましょうとおっしゃっています。今の予測では平成27年には部局から集めないといけないお金は3億くらいになり、パッケージの見直しなどが必要となって、大変厳しい状況になるのではと思っています。現在、共通経費としての負担が2500万円であるため、為替レートに伴う急激な上昇分をこの枠での負担増で対応できないかと本部に相談しましたが、結局各部局への校費の配分額が減るだけで何も変わらないということで、受け入れてもらえませんでした。当面は各部局にご負担いただくスタイルを変えられないと思います。

議長：例えば新しい電子ジャーナル、電子媒体を入れるときはどこの部局が責任を持ってお金を出すという形をとるのでしょうか。

館長：いくつかの方法がございますが、学術資料専門部会に全学的に必要なものとして、各部局から提案していただくというものがあります。部局だけでなく個人からの提案でもよいとなっています。また、各部局購入として、全学的な経費に上ってこない経費で買っているジャーナルもあります。

議長：私は古いタイプの図書館のイメージを持っていて、基本的には図書館は研究機能が大事だと思いますが、そうも言っていられないのはよく分かっています。特に千葉大学さんの例などを聞いてそう思います。そう言ったときに、研究図書館と学習図書館との関係だけではなくて、学習図書館の中をめぐっても、昨今、学習が非常に困難な学生に対して支援をしよう、よく分かる授業、みんなで助けてあげていい成績をとらせようというのが大学の潮流

だと思えます。私などはどちらかというと勉強したいやつはしろ、したくないなら構わないと思うのですが、そうした時に図書館の立場は非常に難しく、労力の80%を普段図書館に来ないのに「すみません、論文書きたいんで教えてください」という学生にかけることになり、そんなところを支援する必要があるのかなどとってしまいます。教務などはなるべく広く学生さんに支援したいのだと思えますが、図書館としてはやる気のある学生に対してより勉強をしてもらうために積極的な支援をしたいため、教務あたりとやりあわないといけないときがあります。おそらく千葉大学さんでもそういったご苦労があるのではないかと思います、自分のところのケースがあるので伺いたいと思えます。

館長：今のところ、ご指摘のあったような問題で、学務教務系となんらかの交渉をしなければならぬという状況はありません。それはまだ学務教務の事務担当では気がついていないだけという気がします。まだ各学部の課題としてしか認識されていないと思えます。分館長、いかがでしょう。

分館長：手当てをしなくてはならないといってもノウハウができていません。クラス顧問といって、学年担当の教員がいるので、それが入学から卒業までつきあう、主にそういう教員が担当し、学務の方から「しばらく来ない」「成績が悪い」という話が上がってきます。昔からドロップアウトする学生があつて、必ず数%いたと思うし、悩む時間が必要だろう、なのでその先に行ってどうしたどうしたと見なければいけないのはどうか、そういう意見も教員にはありますね。学習支援のコーナーに院生がいて、チャンスを与えてあるというのはいいことではないかと思えます。お客さんがいる、いないにかかわらず、そこにちゃんといるというのは学生たちのために十分いいことだと思えました。

館長：学生相談にくる学生の何割かは実は学習困難が問題であるとはよく言われています。相談体制としては、全学的にやっている学生カウンセラーの相談と、附属図書館の学習相談デスクでやっている相談というのは、アカデミック・リンク・センターの教員を介して連携しています。

例えば週に1回昼休みに、カウンセラーが座っています。もしそういう相談がくれば、必要に応じて別の相談者を紹介します。実際に、学務部のカウンセラーが座っているところに、学習相談的な相談が来たので、時間割を見て何曜日のこの時間にくれば学習相談ができるとガイダンスをしたということがありました。図書館でやる相談がどういうレベルになるかという、これは様々な訳ですが、図書館の中でも多様な相談が受けられる環境にしておくことに留意しています。利用者があっちへ行ったりこっちへ行ったりすることがないようにしています。

議長：予算が限られている中で、指標として出てくるのは冊数とかいろいろあるのですが、どういう蔵書コレクションを持っているかということが大学の腕の見せ所になると思えます。

しかし、現在、プロが蔵書構築に積極的に関わることはなかなか難しくなっているかもしれない。数学と英語を使う世界は雑誌というフローで頭がいっぱいになりますが、その時代を代表する最終的な生産物として本も揃えておきたいところです。今、頭が痛いのはプロの目がどういう風に蔵書構築に関わってくれるかということなのですが、悩ましいです。千葉大学は教員と図書館の連携ができていますと感じますが、蔵書構築の中で、教員、プロの目がどういうふうに蔵書構築に関わっているのでしょうか。

館長：図書館は選書権を持っている費用は限られています。実態としては教員の研究費に依存しています。図書館での選書は数百万くらいです。これは非常に問題であるということをご認識しております。図書館は基本的には職員が選書をしており、その範囲の中で完結しています。以前は教員が集まって行う選書委員会があったのですが、それが機能するかという議論があって、そのスタイルをやめるということになりました。これは前の館長のときです。ただし、現在なるべく職員にそういう目をもってもらうことを大きな方向性として試行しています。授業資料ナビをつくることと並行する形で、リエゾンライブラリアン・プロジェクトの延長として、選書に対して特定の研究領域を担当し、その職員が学部の教員の授業資料ナビを作るのも担当するというを行っています。高度なレファレンスが来たときはその領域担当としてバックアップします。ひとりひとりをサブジェクトライブラリアンとして主題専門性を高めるという方向ではないのですが、ある程度のチームで特定の分野をカバーするような活動を進めています。もし資料の選書などについて教員に相談したいことがあれば、リエゾンの担当者から学部の適切な先生にたずねることができるようにしています。

評価委員：職員のことなのですが、さきほどのご説明で、アカデミック・リンク・センターの活動には附属図書館の常勤職員のすべてが関わっているとおっしゃってました。私共から見ても、これだけ多様な活動をするのに人的資源があまりにも足りないのではないかと感じます。一方でスキルを身に着けるという観点からすれば多様な活動をするというのは、確かに職員のレベルアップになると思うのですが、逆に主題のことなどを求められたとき、特にまんべんなくというのは必ずしも正しいやり方ではないという気もします。今は、立ち上げから安定に向かわれている時期なので、職員の不満が少ないと思いますが、まず、今の人数で学習支援ができるのかということと、研究支援まで本当にできるのかということについてお聞きしたいと思います。例えばどこかの業務を委託する、業務を小さくするなどしないと、人的資源が限られ、業務が回らないのではないかと非常に感じますが、いかがでしょうか。

館長：これは分館と西千葉で状況が異なっているのですが、現在西千葉本館では正規職員はルーチンの業務はほとんどやっていません。よく言われる図書館業務というのはほとんど非常勤職員によって賄われています。選書・発注については正規職員がやっていますが、受入の実務、目録作業などは正規職員の手を完全に離れています。委員が言われた部分はある程

度回っているのではと思っています。

分館長：職員の研修など新しいスキルを身に着けるといのは荷重と言いましょうか、負担が増えるということでしょうか。

評価委員：絶対的な作業量に対して、まず人的資源が少ないのではというのがひとつです。従来の図書館業務をしているだけでは今の図書館職員はだめなので、例えば大規模な大学では、University Research Administrator という人が研究評価や外部資金の獲得を始めています。本当に研究支援をするのであれば、別のことをしなければならないと思っています。新しいことをするためには当然勉強をしなければいけない。研究データの管理なんかできる人はいない。新しい仕事をするためには従来の仕事を減らすということとスキルを身に着けるといふことがあると思いますので、そう言ったことがどうなのかと思いました。学習もやり研究もやるという風に聞こえてしまったもので、そうなる就非常に変ではないかと思いました。

分館長：園芸学部は松戸分館の常勤 2 人です。スキルを身に着けるのもいっぱいいっぱいではないかと思っています。しかし図書館という機能を持っているからには、そのようなところで新しい技術、知識を研修という形で得なければいけないと思います。西千葉の本館を見ますと、同じ大学なのに、と思ったりします。職員の方で研修の機会はあるのでしょうか。

千葉大職員：研修機会もありますし、自分で新しい知識を増やすようなことを心がけたりしています。

分館長：小さな学部で、人的なところでは相当大変なのではと思いますが、松戸分館では貴重書室というのがありまして、小寺ライブラリーというのがあり、一定数の人に見てもらっています。

小さな分館ですが、こういう貴重書室を分館の特徴として維持していきたいと思っています。

評価委員：さきほどミッションの話が出ていましたが、大学図書館としての明文化されたミッションを作るといふ問題と、電子資料と紙の蔵書をどうするのかという問題があります。蔵書は 200 万冊くらいは押し込むと入りそうだなと思いますが、千葉大学の規模からすると十分ではないと見ています。コレクションをどうしていくかという長期的な展望をつくられたら良いのではないのでしょうか。予算も人もない中でいろんなことを考えていかないといけないと思います。分館と本館の格差の問題が指摘されましたけど、ALSA というシステムはすごくいい、素晴らしいと思います。ALSA はすべての館に導入できるのではないのでしょうか。

館長：ALSA は分館の方にはおりません。今後アカデミック・リンクの全学的展開の中で検討する必要があると考えています。

評価委員：アカデミック・リンク・センターの機能の中で私が見て一番感動したのが、この相談員の制度だったので、これを分館にも手当すると良いのではないのでしょうか。パソコンを揃えるとか環境の面でも差があると思いますが、これはできそうなことと思いました。

評価委員：いい調査をなさっているので、これをどう生かしていくかが問題だと思います。実績があるのでこれを中長期的なプランに生かしてはどうでしょうか。

議長：今日ご説明いただいたことをより発展的に進めていくということですね。

評価委員：ミッションを具体的に展開するために、図書館としてPDCAを回すための年次計画を明示的にお持ちになった方がいいのではないのでしょうか。例えば、機関リポジトリの件数が最近落ちているということですが、毎年1,000件登録することができるだろう、それに対して800件登録したなどということです。大学の中期計画では重点事項が表に出ますが、図書館業務には日常のアクティビティがあるので、それを含めたPDCAの計画を立てられてはと思います。

議長：どこの大学もそうですが、事務機構に人的な体制が必ずしも十分でないところの中でご苦労なさっているということが今日は確認できたと思います。ミッションの問題、紙媒体と電子資料の問題がでましたので、この辺をまとめていきたいと思います。委員の皆さまには本日の外部評価委員会と資料を踏まえて評価をお願いしたいと思います。

館長：大変タイトなスケジュールで、お忙しいところ様々な資料に目を通していただきまして、また資料に不備があったことをお詫びしつつ、心より御礼を申し上げます。

今いろいろご意見をいただきましたけれど、どれももっともなことでいろんな資源が限られている中でかなり無理をして新しいことをやっているということは分かっております。大学図書館が図書館として残っていくためには、無理をせざるを得ないタイミングがあり、今それが来ているのではないかというのが館長としての思いであります。無理なままでいくということはありませんので、今日伺ったご意見を参考に、積極的に本部の大学当局とかけあっていくことは、限られている資源を図書館に配分してもらうために全力をかけて取り組みたいと思います。

図書館のミッションについてはどう考えるかというのは、難しいところと思っています。私たちは教育に関わる場所は、アカデミック・リンクというコンセプトでやっていくということをミッションに掲げているわけがございます。研究につきましては、図書館がどのようにやっていくのか明確にミッションを示しているわけではありません。千葉大学の附属図

書館としてどういうことを考えるのか示していきたいと思います。

本日は長時間にわたりまして貴重なご意見を賜りましてありがとうございました。それではこれを持ちまして千葉大学附属図書館外部評価委員会を終わらせていただきます。

Ⅱ. 評価委員会資料

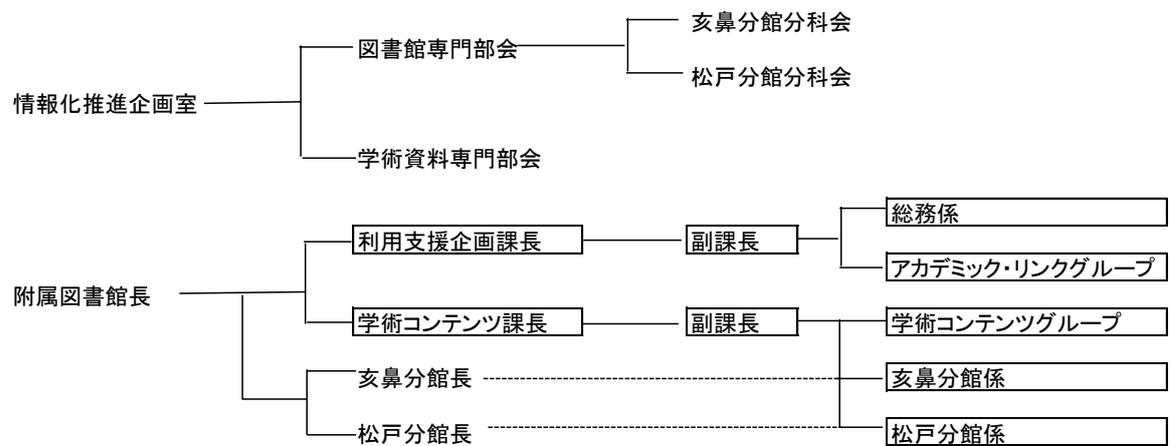
1. 管理運営

1.1. 運営組織

組織機構図(平成 22 年度)



(平成 25 年 4 月現在)



1.2. 専門部会

平成18年9月に「附属図書館運営委員会」が廃止され、情報化推進企画室の下に「図書館専門部会」と「学術資料専門部会」が設置された。

活動状況

開催日	
平成21. 5. 12	図書館専門部会
平成22. 3. 30	図書館専門部会
平成22. 7. 15	図書館専門部会
平成23. 3. 24	図書館専門部会
平成23. 7. 21	図書館専門部会
平成24. 6. 7	図書館専門部会
平成25. 2. 18	図書館専門部会
平成19. 2. 16	学術資料専門部会
平成19. 6. 12	学術資料専門部会
平成19. 7. 6	学術資料専門部会
平成19. 9. 18	学術資料専門部会
平成19. 11. 21	学術資料専門部会
平成20. 12. 25	学術資料専門部会
平成22. 3. 30	学術資料専門部会
平成22. 7. 15	学術資料専門部会
平成22. 11. 17	学術資料専門部会
平成23. 7. 21	学術資料専門部会
平成24. 6. 7	学術資料専門部会
平成24. 12. 20	学術資料専門部会
平成25. 2. 18	学術資料専門部会

附属図書館本館(旧館)の増改築の検討を行う総合メディアホール整備計画検討専門部会が平成20年度に設置され、平成22年度からはアカデミック・リンク検討専門部会の名称に改組し検討を続けた。

総合メディアホール(仮称)整備計画検討専門部会活動状況

開催日	
平成21. 5. 27	第1回メディアホールWG
平成21. 5. 27	第2回メディアホールWG
平成21. 6. 9	第3回メディアホールWG
平成21. 6. 18	第4回メディアホールWG
平成22. 3. 5	第1回アカデミック・リンク検討専門部会準備会
平成22. 3. 15	第2回アカデミック・リンク検討専門部会準備会
平成22. 4. 5	第1回アカデミック・リンク専門部会
平成22. 4. 16	第2回アカデミック・リンク専門部会
平成22. 5. 7	第3回アカデミック・リンク専門部会
平成22. 5. 21	第4回アカデミック・リンク専門部会
平成22. 6. 17	第5回アカデミック・リンク専門部会
平成22. 7. 2	第6回アカデミック・リンク専門部会

研究者情報管理システム専門部会活動状況

開催日	
平成21. 10. 28	研究者情報管理システム専門部会

(参考)

○国立大学法人千葉大学情報化推進企画室

図書館専門部会内規

平成18年9月1日

制定

(趣旨)

第1条 この内規は、国立大学法人千葉大学情報化推進企画室規程第7条第2項の規定に基づき、千葉大学情報化推進企画室図書館専門部会(以下「専門部会」という。)の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

(協議事項)

第2条 専門部会は、次に掲げる事項について審議する。

- 一 全学的な図書館サービスに関すること。
- 二 情報化推進企画室からの付託事項に関すること。

(組織)

第3条 専門部会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 附属図書館長
 - 二 附属図書館亥鼻分館長及び松戸分館長
 - 三 統合情報センター長
 - 四 文学部，教育学部，法経学部，各研究科(教育学研究科を除く。)，各研究院，普遍教育センター及び国際教育センターから選出された教授各1名
 - 五 学務部長
 - 六 その他専門部会が必要と認めた者
- 2 前項第4号及び第6号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(主査)

第4条 専門部会に主査を置き、附属図書館長をもって充てる。

- 2 主査は、必要に応じ専門部会を招集し、その議長となる。
- 3 主査に事故あるときは、主査があらかじめ指名した分館長が、その職務を行う。

(委員以外の出席)

第5条 主査は、必要と認めるときは、委員以外の者を会議に出席させることができる。

(分科会)

第6条 専門部会に、分館等の事項について協議する分科会を置くことができる。

2 分科会に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第7条 専門部会の事務は、附属図書館利用支援企画課において処理する。

(雑則)

第8条 この内規に定めるもののほか、専門部会に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この内規は、平成18年9月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成24年4月1日から施行する。

○国立大学法人千葉大学情報化推進企画室

学術資料専門部会内規

平成18年9月1日

制定

(趣旨)

第1条 この内規は、国立大学法人千葉大学情報化推進企画室規程第7条第2項の規定に基づき、千葉大学情報化推進企画室学術資料専門部会(以下「専門部会」という。)の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

(協議事項)

第2条 専門部会は、次に掲げる事項について審議する。

- 一 全学における学術資料の整備・提供に関すること。
- 二 全学における学術情報発信に関すること。
- 三 情報化推進企画室からの付託事項に関すること。

(組織)

第3条 専門部会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 附属図書館長
 - 二 附属図書館亥鼻分館長及び松戸分館長
 - 三 統合情報センター長
 - 四 文学部，教育学部，法経学部，各研究科(教育学研究科及び専門法務研究科は除く。)及び各研究院から選出された教授各1名
 - 五 その他専門部会が必要と認めた者
- 2 前項第4号及び第5号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(主査)

第4条 専門部会に主査を置き、附属図書館長をもって充てる。

- 2 主査は、必要に応じ専門部会を招集し、その議長となる。
- 3 主査に事故あるときは、主査があらかじめ指名した分館長が、その職務を行う。

(委員以外の出席)

第5条 主査は、必要と認めるときは、委員以外の者を会議に出席させることができる。

(分科会)

第6条 専門部会に、専門の事項について調査・検討する分科会を置くことができる。

2 分科会に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第7条 専門部会の事務は、附属図書館利用支援企画課において処理する。

(雑則)

第8条 この内規に定めるもののほか、専門部会に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この内規は、平成18年9月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成25年4月1日から施行する。

1.3. 耐震改修・増築・機能改修

○経緯

平成 22 年度の概算要求で措置された附属図書館改修増築工事は、K 棟(旧館)の耐震改修を第 1 期工事、N 棟、I 棟の増築を第 2 期工事として、予定どおり着工した。しかしながら、平成 23 年 3 月の東日本大震災の影響等から竣工時期が大幅に遅れ、平成 23 年 10 月ようやく K 棟が再オープンした。また、同時に平成 23 年度国立大学教育研究特別整備費の配分を受け、什器や無線 LAN 設備などの整備を行っていった。平成 24 年 3 月 16 日に竣工記念式典を挙行し、N 棟、I 棟を含めた附属図書館がフルオープンした。N 棟には話をしながら学習ができる新しいコンセプトの空間(アクティブ・ラーニング・スペース)を設置した。

平成 23 年度から運営費交付金特別経費(プロジェクト分)が認められ、平成 23 年 4 月にアカデミック・リンク・センターが設置された。平成 24 年 3 月の建物のオープンに伴い、アカデミック・リンクの活動を本格的に開始した。

○進展

平成 24 年度になって、本館で最後に残った L 棟(新館)の機能改修が俎上に上り、平成 26 年度の概算要求を行うこととなった。施設環境部との数回の打ち合わせにより、概算要求内容は L 棟の増築及び改修と決まり、情報化推進企画室図書館専門部会への報告を経て、文部科学省に提出された。この要求事項は、思いがけず平成 24 年度の補正予算として認められ、平成 25 年 11 月から改修工事が始まることとなった。L 棟には、アクティブ・ラーニング・スペースを増設するとともに、完全に静かな学習空間(特別閲覧室)を設置し、学生の多様な学習要求に応えられるよう配慮している。

1.4. 防災対策

平成 23 年 3 月の東日本大震災の際には、昭和 43 年建築の本館は耐震改修工事の準備中で、図書館の資料の搬出は終わっており、使用可能なエリアの図書のうち数千冊は落下したが、特に人的被害はなかった。その後古い積層型書庫は改修により撤去された。

各書架に本の落下防止テープを貼るなどの防止策は行っていない。すべての工事が完了した後に防災訓練を行うことが計画されている。

1.5. 人材育成・研修

平成22年度

学外/学内	名称	人数
学外	大学図書館職員長期研修	1
学外	ILLシステム講習会(NII)	1
学内	放送大学受講	4
学内	TOEIC受験	4
学内	管理職員向けメンタルヘルス講習会	4
学内	幹部職員研修	2
学内	中堅職員研修	1
学内	情報セキュリティ研修会	4
学内	ビジネスマナー研修	5
学内	事務情報化講習会	2
学内	副課長級研修	2
学内	危機管理に関する講習会	5

平成23年度

学外	SPARC JAPANセミナー2011	1
学外	目録システム講習会(NII)	1
学外	関東・甲信越地区国立大学法人等係長研修	1
学内	放送大学受講	5
学内	TOEIC受験	4
学内	全学FD研修会	1
学内	安全衛生管理講習会	1
学内	副課長級研修	1
学内	情報セキュリティ研修会	5
学内	幹部職員研修	2
学内	ビジネスマナー研修	2
学内	事務情報化講習会	4
学内	新採用職員研修	1

平成24年度

学外	レファレンス研修(国会図)	1
学外	機関リポジトリ新任担当者研修(NII)	1
学外	学術情報リテラシー教育担当者研修(NII)	1
学外	大学図書館職員短期研修(NII)	1
学外	学術ポータル担当者研修(NII)	1
学外	目録システム講習会(NII)	1
学外	図書館等職員著作権実務講習会	2
学外	古典籍講習会(国文学研究資料館)	1
学外	防火・防災管理新規講習	2
学内	放送大学受講	3
学内	係長(専門職員)研修	1
学内	情報セキュリティ研修会	3
学内	TOEIC受験	4
学内	事務情報化講習会	4
学内	ビジネスマナー研修	3
学内	中堅職員研修	1
学内	新採用職員研修	1

2. 予算・経費

2.1. 図書館資料費

図書	和	20,419 千円	
	洋	12,795 千円	
	計	33,214 千円	
雑誌	和	17,978 千円	
	洋	43,381 千円	
	計	61,359 千円	
電子ジャーナル	出版社	国内	1,420 千円
		国外	229,802 千円
		計	231,222 千円
	その他	国内	2,447 千円
		国外	6,508 千円
		計	8,955 千円
	計	国内	3,867 千円
		国外	236,310 千円
		計	240,177 千円
電子書籍	国内	781 千円	
	国外	7,127 千円	
	計	7,908 千円	
データベース	国内	3,812 千円	
	国外	25,469 千円	
	計	29,281 千円	
その他		30,615 千円	
図書館資料費(合計)		402,554 千円	

図書館資料費の経年変化

(単位:千円)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
大学総経費	50,233,724	52,535,789	58,299,863	56,534,488	58,908,494	60,229,460
本館資料費	295,560	352,493	344,217	332,581	346,551	364,712
亥鼻分館資料費	57,297	58,369	58,592	48,642	41,435	27,782
松戸分館資料費	12,369	10,899	8,556	8,887	10,173	10,060
(本分館合計)	365,226	421,761	411,365	390,110	398,159	402,554
大学総経費に占める図書館資料費の割合	0.7%	0.8%	0.7%	0.7%	0.7%	0.7%
大学総経費に占める図書館資料費の割合 全国平均(国立大学)	0.9%	0.9%	0.9%	0.9%	0.8%	—

学術情報基盤実態調査データによる

2.2. 図書館運営費

図書館・室運営費の内訳平成24年度実績本・分館合計(千円未満四捨五入)

人件費	196,009 千円
その他の経費	103,074 千円
図書館・室運営費(合計)	299,083 千円

図書館運営費の経年変化

(単位:千円)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
大学総経費	50,233,724	52,535,789	58,299,863	56,534,488	58,908,494	60,229,460
本館運営費	224,514	222,721	234,293	217,300	219,553	232,805
亥鼻分館運営費	64,636	67,306	60,158	50,334	50,206	44,717
松戸分館運営費	20,469	24,241	23,258	21,715	20,617	21,561
(本分館合計)	309,619	314,268	317,709	289,349	290,376	299,083
大学総経費に占める図書館運営費の割合	0.6%	0.6%	0.5%	0.5%	0.5%	0.5%
大学総経費に占める図書館運営費の割合 全国平均(国立大学)	0.9%	0.8%	0.8%	0.8%	0.7%	—

学術情報基盤実態調査データによる

3. 施設・設備

3.1. 延床面積と閲覧座席数

図書館・室名	施設	
	延床面積 (㎡)	閲覧 座席数
本館	15,257	1,435
亥鼻分館	3,784	259
松戸分館	1,009	128
大学総合計	20,050	1,822

附属図書館本館のK棟(旧館)(RC3F 4,427㎡)昭和43年竣工,平成23年改築(4,175㎡)
L棟(新館)(RC4F 4,929㎡)昭和56年竣工
I棟(RC4F 2,195㎡), N棟(RC4F 3,957㎡)平成23年竣工

医学部分館(1,128㎡)昭和46年竣工
亥鼻分館新館(RC3-1 3,784㎡)平成8年竣工

園芸学部分館(現松戸分館)昭和38年竣工
園芸学部分館(現松戸分館)増築部分(565㎡ 計1,009㎡)昭和58年竣工

3.2. 学生あたりの閲覧座席数

学生数	閲覧 座席数	学生あたりの 閲覧座席数
14,967	1,822	0.12

(参考)

平成24年度学術情報基盤実態調査結果報告

区分	閲覧座席数	学生数	学生あたりの 閲覧座席数
(国立大学)			
A	37,036	302,385	0.12
B	12,757	122,031	0.10
C	15,495	126,091	0.12
D	8,187	67,627	0.12
計	73,475	618,134	0.12
1大学平均	854	7187.6	0.12

区分A：8学部以上（19校）
区分B：5～7学部（16校）
区分C：2～4学部（26校）
区分D：単科大学（25校）

3.3. 収容冊数

	棚板延長 (m)	収容冊数 (冊)
本館	36,118	1,003,278
亥鼻分館	11,970	332,500
松戸分館	3,000	83,333
合計	51,088	1,419,111

注) 収容可能冊数は [棚板延長 (m) ÷ 0.9 × 25] の式により算出されている(1段に25冊)

2013年度日本図書館協会調査提出データによる

(参考)

平成24年度学術情報基盤実態調査結果報告
書架収容力

区分	書架収容力	
	棚板延長	収容可能冊数
(国立大学)	m	冊
A	1,959,120	54,419,997
B	476,763	13,243,420
C	603,920	16,775,554
D	357,247	9,923,529
計	3,397,050	94,362,500
1大学平均	39,501	1,097,238

	(棚板延長の平均)	(m)
(区分A)	1959,120 ÷ 19 =	103,112
(区分B)	476,763 ÷ 16 =	29,798
(区分C)	603,920 ÷ 26 =	13,740
(区分D)	357,247 ÷ 25 =	14,290

区分A：8学部以上 (19校)
区分B：5～7学部 (16校)
区分C：2～4学部 (26校)
区分D：単科大学 (25校)

3.4. 利用者用 PC 台数

	台数
本館	92
亥鼻分館	33
松戸分館	8
合計	133

本館の内訳は次のとおり。

教育用端末 50台(N棟3階),

貸出用端末 25台,

OPAC用端末 10台, 情報検索用端末 2台

CALL(語学学習用)5台

(平成25年5月1日現在)

亥鼻分館の内訳は次のとおり。

OPAC用端末 1台, 情報検索用端末 12台,

情報リテラシー教育用ノートパソコン 20台

松戸分館の内訳は次のとおり。

OPAC用端末 4台, 情報検索用端末 4台

4. 学術情報資源

4.1. 所蔵資料

	本館	亥鼻分館	松戸分館	合計
蔵書冊数	1,035,600	251,813	99,030	1,386,443
図書受入冊数	7,719	2,223	1,114	11,056
雑誌所蔵タイトル数	15,127	5,446	3,531	24,104
雑誌受入タイトル数	2,978	1,158	741	4,877
新聞受入タイトル数	17	12	12	41
視聴覚資料タイトル数(CD,DVD,ビデオ)	3,623	889	317	4,829

2013年度日本図書館協会「日本の図書館」調査提出データによる(平成24年度実績)

4.2. 電子的資料(電子ジャーナル・電子ブック・データベース)

4.2.1. 電子ジャーナル・電子ブック

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
利用可能な電子ジャーナルタイトル数	16066※	13,001	13,369	17,623	20,214	20,674
利用可能な電子ブックタイトル数	2,620	2,967	6,007	13,624	14,158	17,360

※平成19年度は本来集計対象外の無料公開タイトルが約3,000タイトル含まれている。

中期目標期間の実施状況経年データ(企画総務部企画政策課提出)等による

電子ジャーナル、電子ブックパッケージの利用統計(2012年1月～12月)

電子ジャーナル

※表右側に注記のないものは全て CounterR3 JR1 YTD Total の数値を使用

種別	タイトル	アクセス数	備考
EJ	Academic Search Premier	15,500	
EJ	ACS FullPackage	102,232	
EJ	American Geophysical Union	2,816	
EJ	Annual Reviews	1,815	
EJ	APS-ALL パッケージ	15,894	
EJ	BioOne.1	1,250	
EJ	Cell Press	25,067	
EJ	Cambridge University Press 全分野パッケージ	2,369	
EJ	IEEE IEL	10,984	
EJ	Informa Healthcare	5,588	
EJ	Journal of the Physical Society of Japan	1,224	PDF ダウンロード数
EJ	JSTOR Arts & Sciences I Collection	3,654	
EJ	Nature (34 タイトル)	68,066	
EJ	Ovid Nursing Fulltext	8,060	
EJ	Oxford University Press	15,774	
EJ	Project Euclid Prime	188	
EJ	ProQuest Health & Medical Complete	4,280	
EJ	PsycArticles	3,844	
EJ	RSC e-journals collection	23,036	
EJ	Sage Premier	9,876	
EJ	SciVerse ScienceDirect フリーダム・コレクション	351,520	(Cell を抜いた数)
EJ	SpringerLINK	68,099	(Springer + Metapress)
EJ	Taylor & Francis Full Package (SSH + S&T)	9,978	
EJ	Wiley Full コレクション	107,095	
EJ	日経 BP 記事検索	10,897	閲覧記事本数
EJ	メディカル・オンライン	79,058	文献ダウンロード数

電子ブック

※医学中央雑誌以外は CounterR3 BR1, BR2 YTD Total の数値を使用

種別	タイトル	アクセス数	備考
EB	Cambridge University Companions Online (Literature & Classics + Philosophy, Religion and Culture)	33	パッケージ

EB	EBSCOhost eBook Collection (旧 NetLibrary)	1,125	タイトル個別購入
EB	Springer eBook Collections	4,238	パッケージ
EB	web 版ステッドマン医学大辞典 [亥鼻限定]	2,933	アクセス数

4.2.2. データベース

データベースの利用統計(2012年1月～12月)

※表右側に注記のないものは全て CounterR3 DR3 Total Searches Run の数値を使用

タイトル	検索回数	備考
CINAHL	23,425	
CiNii Articles	261,211	
Cochrane	43,938	
EBSCOhost (Academic Search Premier)	17,897	Searches
EndNote Web	3,634	ログイン数
Gale Biography in Context [西千葉限定]	81	検索回数
Journal Citation Reports	11,681	
LEX/DB	5,541	検索回数
Lexis.com	381	Searches
Marquis Biographies Online	196	Searches
MathSciNet	20,981	
MEDLINE	40,648	
MLA Directory of Periodicals	10,824	
MLA International Bibliography	11,045	
PsycINFO	19,859	
SciFinder	109,724	Searches
Sciverse Scopus	127,978	
医学中央雑誌 [亥鼻限定]	118,518	検索回数
聞蔵Ⅱ	2,471	ログイン成功回数
ジャパナレッジ	9,013	検索回数
ブリタニカオンライン	6,635	Queries
ヨミダス	9,513	検索回数
ルーラル電子図書館 [松戸限定]	6,301	本文閲覧件数

4.3. コレクション

文庫名	数量	配架場所	由来等	内容
アダム・スミス コレクション	34点	本館	法経学部の収集書 「アダム・スミスコレクション解 題目録」平成9年刊	アダム・スミスの著書を中心にイギリス 経済学関係の貴重図書
郭沫若記念文庫	約3,000冊	本館	郭沫若氏(中国科学院長) の寄贈書	「四部叢刊」,「百納本二十四史」,「説 文解字詁林」等
小池文庫	約7,600点	本館	小池新二教授の旧蔵書 「小池文庫目録」昭和61年刊	工業デザインを中心に, 芸術, 建築, 社 会, 地誌, 民俗, 文学などの関連資料 雑誌, パンフレットを多数含む
佐久間文庫	約1,200冊	本館	佐久間政一氏(旧制第二 高等学校教授)の旧蔵書	ドイツ語学を中心にドイツ文学, 芸術関 係図書
竹田文庫	488点	本館	竹田厚太郎教授の旧蔵書	ドイツ語図書を中心とするドイツ哲学関 係資料
田中(康一)文庫	約2,400点	本館	田中康一教授の寄贈書 田中完一氏の寄贈書	ドイツ語学, 文学関係資料及び田中家 所蔵の和漢書 古ドイツ語の音声記録の録音テープを 含む
田中(英明)文庫	1,040冊	本館	田中英明教授の旧蔵書 「田中文庫目録」昭和57年刊	経営学, 経営管理関係図書
ハンガリー文庫	約770冊	本館	大使館の寄贈書 文学部の収集書	ハンガリー関係資料口
ブルガリア文庫	約930冊	本館	大使館の寄贈書 文学部の収集書	ブルガリア関係資料口
町野家文庫	約700点	本館	町野久衛氏の寄託資料 昭和44年作成の目録(コ ピー)有り	千葉県犢橋村(現千葉県花見川区犢 橋町)旧名主の町野家所蔵の江戸期 の古文書。貢租資料, 宗門人別帳, 訴 訟記録等諸般に渡る明治初期の「朝野 新聞」,「国益新聞」,「二六新聞」,「東 海新聞」を含む
吉武文庫	約3,000点	本館	吉武好孝教授の旧蔵書	英米文学を中心に, 文体論, 文章論関 係資料, 明治初期の翻訳文学書を数 多く含む
東洋医学古書 コレクション	1,785点 (5,418冊)	亥鼻分館	伊藤弥恵治教授の寄贈書 千葉弥治馬氏の寄贈書 佐倉順天堂旧蔵書 「千葉大学附属図書館亥鼻 分館古書コレクション目録 中間版」平成12年刊	古医書及び佐倉順天堂に所蔵されて いた蘭学関係の資料 「重訂・解体新書」,「蘭学事始」,「臍 志」,「麻島流眼科秘伝」等の貴重書を 含む
小寺文庫	約7,500点	松戸分館	小寺駿吉教授の旧蔵書 「小寺文庫目録」昭和62年刊	造園学, 造園史関係資料 内外の地誌関係資料や公園緑地関係 の図面を数多く含む
手塚岸衛・ 自由教育文庫	67点	本館	手塚岸衛氏の蔵書及び自由 教育関連の諸資料	手塚岸衛氏の手稿と著作, 千葉県師範 学校関係の史資料等新聞切り抜き, 写 真を多く含む

5. サービス

5.1. サービス全般

5.1.1. 利用対象者数(教職員数・学生数)

(平成24年5月1日現在, 単位:人)

学生数	14,481
-----	--------

(学部・大学院合計)

聴講生等数	486
-------	-----

(学生数と聴講生等数の合計14,967)

(単位:人)

教職員数	専任	非常勤その他	計
教員数	1,276	1,077	2,353
職員数	1,669	1,529	3,198

(合計5,551)

大学構成調査票による

(単位:人)

本・分館別奉仕対象数	本館	亥鼻分館	松戸分館	合計
学生	11,256	2,457	1,254	14,967
教職員	2,251	3,082	218	5,551
計	13,507	5,539	1,472	20,518

(単位:人)

本・分館別図書館職員の構成		本館	亥鼻分館	松戸分館	合計
専任	専従職員	17	2	2	21
	兼務職員	1	1	1	3
非専任	非常勤職員	17.9	6.1	1.9	25.9
	臨時職員	0	0	0	0
派遣職員等		4.5	2.8	0.7	8
計		40.4	11.9	5.6	57.9

(注:非常勤職員・臨時職員の「17.9」等の数は年間1,500時間を1人と換算した勤務割合による)

2013年日本図書館協会「日本の図書館」調査提出データによる

(単位:人)

(平成24年度)	本館	亥鼻分館	松戸分館	合計
図書館職員1人あたりの奉仕対象数	334.3	465.5	262.9	354.4

5.1.2. 開館時間

図書館の総開館時間

(時間)

	開館総時間数	時間外開館時間数
本館	3,207	1,200
亥鼻分館	8,750	6,766
松戸分館	2,742	766

平成25年度学術情報基盤実態調査による

(参考1)

開館時間

		本館	亥鼻分館	松戸分館
授業期間	平日	9:00-21:45	9:00-21:45	9:00-21:00
	土日	10:30-18:00	10:30-20:00	12:30-16:30
	祝日	10:30-18:00	10:30-20:00	12:30-16:30
試験期間	平日	8:45-23:00	9:00-21:45	9:00-21:00
	土日	10:30-20:00	10:30-20:00	12:30-16:30
	祝日	10:30-20:00	10:30-20:00	12:30-16:30
休業期間	平日	9:00-16:45	9:00-16:45	9:00-16:50
	土日	閉館	閉館	閉館
	祝日	閉館	閉館	閉館

(本館開館日程カレンダー)

無印	9:00-21:45	※	8:30-23:00 (2014:22時)	書	10:30-18:00
緑	10:30-20:00 (22時)	緑	9:00-18:45	赤	休館
赤	8:45-23:00 (22時)				

*延長開館は、記号として試験の2週間前から行います。次年度以降中止の可能性が有ります。

西千歳キャンパス

2013年4月							2013年5月							2013年6月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6				1	2	3	4							1
7	8	9	10	11	12	13	5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8
14	15	16	17	18	19	20	12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15
21	22	23	24	25	26	27	19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22
28	29	30					26	27	28	29	30	31	23	24	25	26	27	28	29	
													30							

2013年7月							2013年8月							2013年9月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6					1	2	3	1	2	3	4	5	6	7
7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14
14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21
21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28
28	29	30	31				25	26	27	28	29	30	31	29	30					

2013年10月							2013年11月							2013年12月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5						1	2	1	2	3	4	5	6	7
6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9	8	9	10	11	12	13	14
13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16	15	16	17	18	19	20	21
20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23	22	23	24	25	26	27	28
27	28	29	30	31			24	25	26	27	28	29	30	29	30	31				

2014年1月							2014年2月							2014年3月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4							1							1
5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	
19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	
26	27	28	29	30	31		23	24	25	26	27	28	29	30	31					

図書館ホームページ - 利用案内 - 図書館ガイド (<http://www.ll.chiba-u.ac.jp/useguide.html>)

(開館カレンダーURL: <http://www.ll.chiba-u.ac.jp/calendar/index.html>)

試験期の延長開館時間(本館のみ) 月~金: 8:30-23:00 土日祝: 10:30-20:00

5.1.3. 入館者数

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
本館	543,946	523,515	498,290	493,732	385,941	516,825
亥鼻分館	76,535	68,603	63,307	68,062	67,315	59,255
松戸分館	58,677	49,177	44,482	42,564	40,957	37,428
合計	679,158	641,295	606,079	604,358	494,213	613,508

日本図書館協会「日本の図書館」調査提出データによる

5.1.4. 貸出冊数

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
本館	114,746	115,310	103,780	99,557	109,364	115,121
亥鼻分館	18,317	17,559	16,440	14,734	15,675	14,780
松戸分館	6,236	6,042	6,042	6,020	5,957	6,463
合計	139,299	138,911	126,262	120,311	130,996	136,364

日本図書館協会「日本の図書館」調査提出データによる

5.1.5 文献複写・現物貸借件数

5.1.5.1. 文献複写

文献複写 依頼	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
本館	2,244	2,047	1,925	2,169	2,385	1,823
亥鼻分館	2,662	2,794	2,326	2,085	2,184	2,078
松戸分館	417	348	291	394	353	299
合計	5,323	5,189	4,542	4,648	4,922	4,200

文献複写 受付	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
本館	5,347	4,696	4,117	579	1,532	2,737
亥鼻分館	7,290	6,712	6,029	4,952	5,049	5,177
松戸分館	1,183	983	880	850	598	520
合計	13,820	12,391	11,026	6,381	7,179	8,434

5.1.5.2. 現物貸借

現物貸借 借受	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
本館	708	765	662	605	518	617
亥鼻分館	104	54	43	70	119	39
松戸分館	247	259	254	192	119	48
合計	1,059	1,078	959	867	756	704

現物貸借 貸出	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
本館	487	499	488	228	457	440
亥鼻分館	26	40	30	18	35	76
松戸分館	85	103	106	91	35	26
合計	598	642	624	337	527	542

学術情報基盤実態調査提出データによる

5.1.6. レファレンス件数

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
本館	4,767	3,985	5,878	4,966	4,434	5,852
亥鼻分館	3,216	3,214	3,119	2,614	2,119	1,977
松戸分館	1,261	1,331	1,387	1,315	1,437	1,411
合計	9,244	8,530	10,384	8,895	7,990	9,240

学術情報基盤実態調査提出データによる

5.1.7. 留学生サービス

千葉大学の留学生(平成24年度5月1日現在, 単位:人)

学部生	修士	博士	研究生	特別研究生	特別聴講生	科目等履修生	専攻生	予備教育生	園芸別科	合計
239	265	278	93	5	57	6	14	3	1	961

(千葉大学概要 2012 による)

留学生用コーナー蔵書数(平成25年3月31日現在, 単位:冊)

本館	亥鼻分館	松戸分館	合計
3,299	1,119	1,558	5,976

○留学生経費

平成 22-24 年度 毎年 1,250,000 円

○留学生ガイダンス

【平成 22 年度】

・4/21 回数:1 回 参加人数:8 名

内容:サービス案内+ツアー

・10/6 回数:3 回(英語 2 回+日本語 1 回) 参加人数:40 名

内容:サービス案内+ツアー

・10/28 回数:1 回 参加人数:11 名

内容:蔵書検索, 日本語論文検索, ほか

【平成 23 年度】

・5/18 回数:1 回 参加人数:7 名

内容:サービス案内+ツアー(英語)

・10/4 回数:3 回(英語 2 回+日本語 1 回) 参加人数:47

内容:図書館ツアー

・10/19 回数:1 回 参加人数:10 名

内容:図書館ツアー, OPAC 検索(英語)

・10/27 回数:1 回 参加人数:15 名

内容:蔵書検索, 日本語論文検索, ジャパンナレッジ, ヨミダス, 聞蔵 II, 統計検索, 電子政府の総合窓口

【平成 24 年度】

・4/25 回数:1 回 参加人数:6 名

内容:図書館案内

・10/2 回数:3 回(英語 2 回+日本語 1 回) 参加人数:48 名

内容:図書館ツアー

・10/25 回数:1 回 参加人数:15 名

内容:蔵書検索, 日本語論文検索, ジャパンナレッジ, ヨミダス, 聞蔵 II, 統計検索, 電子政府の総合窓口

5.2. リエゾン・ライブラリアン・プロジェクト

リエゾン・ライブラリアン・プロジェクトは教員と図書館職員との連携の強化のために授業資料ナビゲータ、ポッドキャスト制作を中心に行われてきた。また、利用ガイダンスの支援や職員の海外視察派遣など人材養成にも関わってきた。

リエゾン・ライブラリアン・プロジェクトの活動は、平成 24 年度の附属図書館/アカデミック・リンク・センターのリニューアルオープン以降、アカデミック・リンク・プロジェクトに引き継がれた。

5.2.1. 授業資料ナビゲータ作成科目数

授業資料ナビゲータは、平成 19 年度のサービス開始時は「パスファインダー」の名称で提供した。あるテーマについて初めて学ぶ時の道しるべ(PathFinder)となる、基本的な文献・情報源をまとめた1枚もののリーフレット。

平成 20 年度から「授業資料ナビゲータ(PathFinder)」（略称「授業資料ナビ」）の名称で提供している。
<http://alc.chiba-u.jp/pathfinder/index.html>

授業資料ナビゲータ作成科目数

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
教養コアA(論理と哲学)	11	16	14	13	13	10	9
教養コアB(こころと発達)	0	0	0	6	8	5	4
教養コアC(芸術と文化)	9	14	16	11	10	6	4
教養コアD(社会と歴史)	9	16	11	14	11	8	5
教養コアE(くらしと環境)				5	2	2	2
教養コアF(いのちと科学)				6	5	3	4
教養展開科目			9	3	11	19	30
文学部			5	11	13	14	11
合計	29	46	55	69	73	67	69

授業資料ナビゲータ(PathFinder)	教養コアC(芸術と文化)	
平成25年度(2013) 授業コード:G4C01101		
イメージの歴史1・2		
火2 上村 清雄先生・他先生		
キーワード: 絵画 芸術家 絵巻 近代洋画 モダニズム ポストモダニズム イメージ リアル		
<p>☑ 本授業に利用した資料にはチェックをしましょう。 *のついてる図書は、授業期間中は本館1階2階授業資料ナビゲータコーナーにあります。</p> <p>Web 授業のテーマに関連したデータベースやサイトです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ☐ ジャパンナレッジ【学内限定】 http://www.jkn21.com/ → キーワードを使って検索すると「日本大百科全書」などの辞典の該当項目を検めます。 ☐ 加藤哲弘のホームページ http://web.kyoto-inet.or.jp/people/katoh/ → 加藤哲弘先生は関西学院大学文学部文化歴史学の教授です。 ☐ アリアドネ 美術 http://ariadne.jp/art.html → 人文リソース「ARIADNEアリアドネ」の中の美術部門、美術に関するサイトが紹介されています。 ☐ artscape (アートスケープ) http://artscap.jp/index.html → DNP(日本印刷)が提供する美術情報ポータルサイト。「現代美術用語辞典」もあります。 ☐ ART IT (アートイット) http://www.art-it-asia.top/ → 現代アート情報のポータルサイト。会員登録(無料)をすれば、現代美術の展覧会情報や展覧などを見ることが出来ます。 ☐ e国貨 http://www.emuseum.jp/ → 国立博物館所蔵の国宝資料の文字・画像情報を調べることができます。 ☐ 国指定文化財等データベース http://www.bunka.go.jp/bysa/index_pc.asp → 文化庁が提供する国指定文化財などの検索サイト。 ☐ 文化遺産オンライン http://bunka.nii.ac.jp/idx.do → 文化庁が提供する日本の文化遺産についての情報サイト。日本各地の無形文化財の映像などを見ることが出来ます。 <p>図書 本には、テーマに関する内容がまとめられています。授業のテーマをつまむにはまずはここから始めましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ☐ モナリザの秘密: 絵画をめぐる25章 / ダニエル・アラス [著]: 吉田典子訳 白水社 2007 → 著者が美術史について語ったラジオのシリーズ番組をもとにしたもの。ラジオを聞くように読むことができます。 *【本館1階4階A 723.05/MON】 ☐ 美術の物語 / E. H. ゴンブリッチ [著]: [天野衛ほか訳] ファインズ 2007 → 原書は1950年に出版された西洋美術史の名著。原を重ね、各国語に翻訳されています。この本は原書10版の翻訳。 *【本館1階4階A 702/BLJ】 ☐ 芸術家伝説 / エルンスト・クルス、オットー・クルツ著; E.H. ゴンブリッチ序文; 大西広[ほか]訳 ぺりかん社 1989 → 古今東西の芸術家に関する伝説について、「英雄としての芸術家」「芸術家としての芸術家」「芸術家に翻り当てられた特異な役割」という章立てで考案。 *【本館1階4階A 704/K92】 ☐ イメージの歴史 / 若森みどり著 筑摩書房 2012 ちくま学文庫[W4-4] → かつて放送大学のテキストでしたが昨年「ちくま学文庫」に収録されました。「イメージを眺め」より取り扱う主題が広がり問題意識がさらに先鋭化しています。 *【本館1階4階A 702/BME】 ☐ 日本美術史 / 佐藤康宏著 放送大学教育振興会 2008 → 日本の美術史を縄文時代から昭和期まで通して解説。巻末には作品名索引・人名索引が付いています。 *【本館1階4階A 702.1/NH】【本館1階4階B 377.159/H93】 ☐ 「日本美術」誕生: 近代日本のことばと戦術 / 佐藤道信著 講談社 1996 → 美術用語の成立や概念について確認すること。ことばから日本の美術史を探ります。 *【本館1階4階A 702.16/SAB5】 ☐ 千野香織著作集 / 千野香織著; 千野香織著作編集委員会編 ブリュック → 美術作品とその展示に込められた社会的な「まなざし」を読み解くスリリングな論文集です。 *【授業資料ナビゲータコーナーを考えるB】の欄にあります。】 		<ul style="list-style-type: none"> ☐ みる・かんがえる・はなす: 鑑賞教育へのヒント / アメリカ・アレクサンダー著; 木下智夫訳 淡交社 2001 → 作品を「みる」という行為について著者が懇話し、学んだことを記した書。美術館での作品の見方が変わるかもしれません。 *【本館1階4階A 707/MBR】 ☐ アートレス: マイノリティとしての現代美術 / 川俣正著 フィルムアート社 2006 → 横浜トリエンナーレ総合ディレクターを務めた著者が「アートレス」の理窟、自身が手がけたプロジェクトの解説もあります。 *【本館1階4階A 719/ATO】 ☐ 限界芸術論 / 鶴見俊輔著 筑摩書房 1991 → 芸術論、小説論、映画論など、芸術領域における鶴見氏の論考をまとめた1冊です。 *【本館1階2階A 081.8/TS85】 ☐ オタクから見た日本社会 / 東浩紀著 講談社 2001 → オタクの消費文化行動から現代日本文化について論じています。 *【本館1階4階小 361.5/DOU】 ☐ 博覧会の政治学: まなざしの近代 / 吉見俊哉著 中央公論社 1992 → 近代の帝国主義や消費文化を博覧会を通して考察しています。 *【本館1階4階小 608.9/HAK】 ☐ アーティストは境界線上で踊る / 斎藤理 [著] みすず書房 2008 → アートを進めリアルとは何かを問うアーティストに、精神科医である著者が行ったインタビューと作家論を収録。 *【本館1階4階A 702.16/AT1】 ☐ 絵画の見方 / スーザン・ウッドフォード著; 高橋裕子訳 ミュージアム図書 2005 → *【本館1階4階A 723/KA】 <p>視聴覚資料 図書には、ビデオやDVDも載っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ☐ エルミタージュ美術館 SMEファミリーズ (発売) [19-] → エルミタージュ美術館、ルーヴル美術館など多くの芸術作品を収蔵している美術館を映像で見ることが出来ます。 *【本館1階1階視聴覚資料 708.7/SEK】 ☐ パリ・ルーヴル美術館の秘密 / ニコラ・フィリベール監督 imagicia (発売) c2004 → ルーヴルの内側を撮影したドキュメンタリー。美術館の魅力と共にそれらを守り続けたスタッフたちの姿を収めています。 *【本館1階1階視聴覚資料 708.9/PAR】 ☐ オランダの光 / Dutch light / ビーター・コリム・デ・クロン監督; マールテン・デ・クロン、ヘリット・ワイルムス脚本 imagicia (発売) c2004 Cinefil imagicia → オランダ絵画に大きな影響を与えた、独特の陰影を持つ自然光「オランダの光」を多角的に検証する長編ドキュメンタリー。 *【本館1階1階視聴覚資料 778.2359/DORA】 <p>雑誌 雑誌には図書よりも細かいテーマを扱った論文が載っているため、実際に手に取って読んでみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ☐ BT: 美術手帖: bijutsu techo: monthly art magazine / 美術出版社 美術出版社 → 国内内外の美術界の最新情報や動向がわかる美術総合誌。特集は、建築・デザイン・サブカルチャーなど多岐です。 *【本館1階1階1階雑誌】 ☐ 芸術新潮 新潮社 → 絵画向けの芸術総合誌。写真・図版が充実していて、見て楽しむことができます。 *【本館1階1階雑誌】 <p>参考図書(辞書・事典等) 初めてのテーマは、百科事典や主題別の事典などでおおよその内容をつまみまわしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ☐ 西洋美術解説事典: 絵画・彫刻における主題と象徴 / ジェイムズ・ホルダー著; 高橋達史[ほか]訳 河出書房新社 1988 → 西洋美術に特有の主題・象徴・人物・動植物・観念・持物などを図像学の成果に基づきながら解説した事典です。 *【本館1階4階A 703.7/H17】【本館1階2階参考 703/H17】 ☐ The dictionary of art / editor, Jane Turner; consulting editor, Hugh Brigstocke; editorial advisory board, Toruaki Akiyama ... [et al.] Macmillan → 最大級の美術大百科事典。それぞれの参考文献リストも充実。34巻が索引で用語の相互参照もできます。 *【本館1階2階参考 703/D654】
授業資料ナビゲータ(PathFinder)入口 http://www.lib.chiba-u.ac.jp/pathfinder/ 作成: 千葉大学附属図書館		

5.2.2. ポッドキャスト制作数

図書館ポッドキャストとは、①図書館内の各閲覧室・コーナーや資料、利用方法を案内するコンテンツを配信し、これを利用して図書館セルフツアーを提供してきたライブラリーツアー、②ポッドキャストによる各教員や司法試験合格者等へのインタビュー配信の2つの内容を、利用者に提供してきた取組みである(<http://libcast-chibau.seesaa.net/> 参照)。このポッドキャストプログラムについては、図書館の新增設改修の完了とアカデミック・リンク・センターの発足を受けて、掲載コンテンツを YouTube に移行することにより公開範囲を広げることが課題とされていた。

平成 24 年 10 月以降、附属図書館及びアカデミック・リンク・センター内で内容の検討を行い、図書館ポッドキャストの掲載コンテンツのうち、YouTube での公開に意義があるものについて移行を行った(平成 25 年 2 月にアカデミック・リンク・センター・ウェブサイトにより公開)。それによって、①ライブラリーツアープログラムは削除し、②各教員や司法試験合格者等へのインタビュープログラムのみを提供することとなった。

5.3. 図書館提供の Web サービス

5.3.1. 千葉大学蔵書検索 (OPAC)

千葉大学附属図書館の蔵書検索。図書の所蔵状況，貸出・予約状況の確認のほか，文献複写・現物貸借をオンラインで申込みできるサービスがある。平成 21 年 9 月からはベストリーダや新着図書の一覧が表示されるサービスが追加された。また，平成 18 年 5 月から携帯版 OPAC も提供を行っており，所蔵検索および貸出状況の確認が可能である。

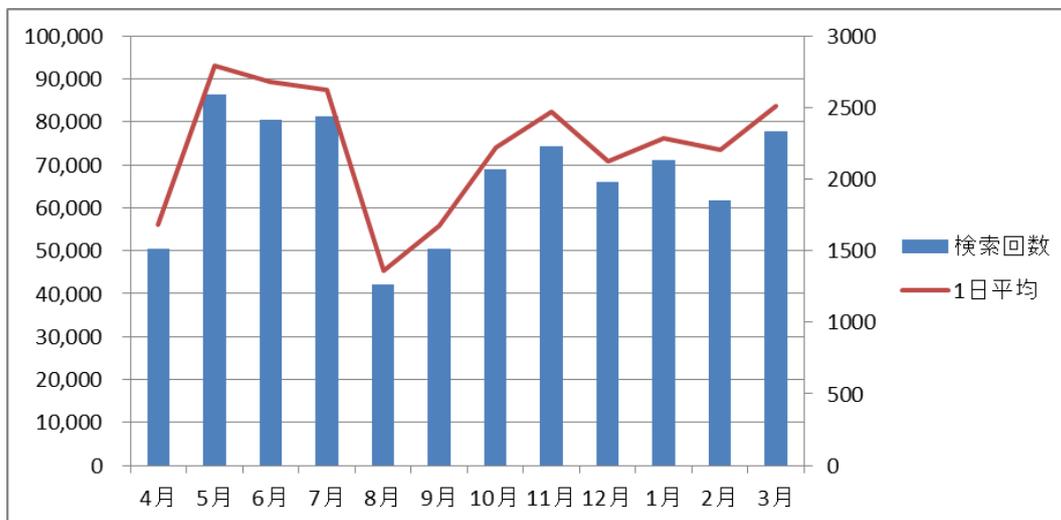
平成 22 年 7 月から予約申込も可能となった。平成 23 年 4 月からはこれまで別途探さなければならなかった電子ブックについても，OPAC から紙の図書同様に検索できるようになった。

また平成 23 年 6 月には，システムのリニューアルを行い，検索結果に「取寄」ボタンが付き，本館一分館間の図書の取り寄せがより簡単に申し込めるようになった。さらに，CiNii Articles や電子ジャーナル AtoZ のタブも加わり，様々なタイプの資料が OPAC 上で検索しやすくなった。

平成 24 年度 OPAC 利用状況

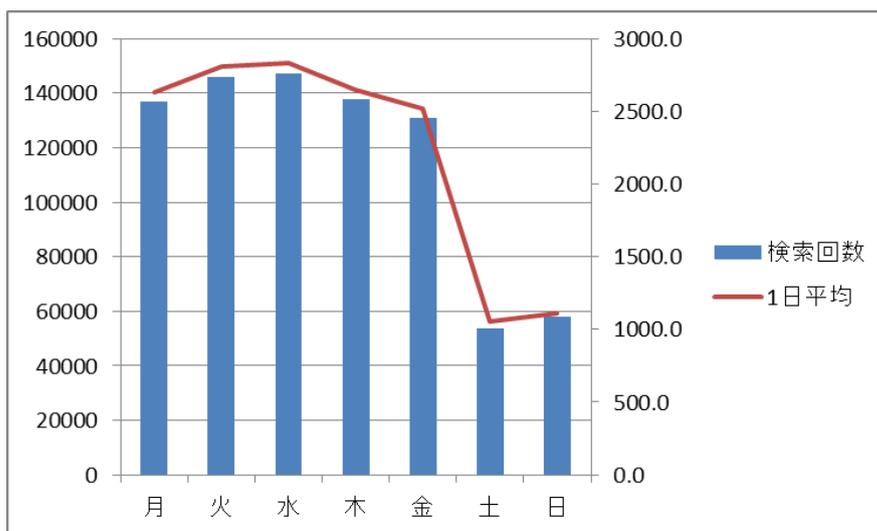
平成24年度 月別検索回数

月	検索回数	1日平均
4月	50,373	1,679.1
5月	86,463	2,789.1
6月	80,421	2,680.7
7月	81,191	2,619.1
8月	42,175	1,360.5
9月	50,316	1,677.2
10月	68,931	2,223.6
11月	74,175	2,472.5
12月	65,969	2,128.0
1月	70,954	2,288.8
2月	61,705	2,203.8
3月	77,731	2,507.5
合計	810,404	2,220.3



平成24年度 曜日別検索回数

曜日	検索回数	1日平均
月	136,971	2,634.1
火	146,075	2,809.1
水	147,196	2,830.7
木	137,835	2,650.7
金	130,846	2,516.3
土	53,615	1,051.3
日	57,866	1,112.8
合計	810,404	



5.3.2. MyLibrary

MyLibrary は、千葉大学の学生・教職員が各自カスタマイズして使える Web 上の図書館である。貸出圖書の返却期限やオンラインで申込んだ文献複写や現物貸借の進捗状況が確認可能である。平成 21 年 6 月から貸出更新を行うことができるようになった。

@千葉大リンクサービス(リンクリゾルバ)

アット ちばだい
@ 千葉大リンクサービスは、web 上で見つけた文献情報を入手するためのサービスであり、データベースによっては、千葉大のネットワーク内から検索した際に下記のアイコンが表示され、アイコンをクリックすると電子ジャーナル、蔵書検索などへつなぐ、ナビゲーションウィンドウが開く。

このサービスの開始以前は、データベースの検索結果を参照して、改めて蔵書検索や電子ジャーナルのタイトルリストの検索等の手間が必要であったが、このサービスによってデータベースの検索結果から直接論文本文を閲覧することができるようになった。



アット ちばだい
「@千葉大リンクサービス」アイコン

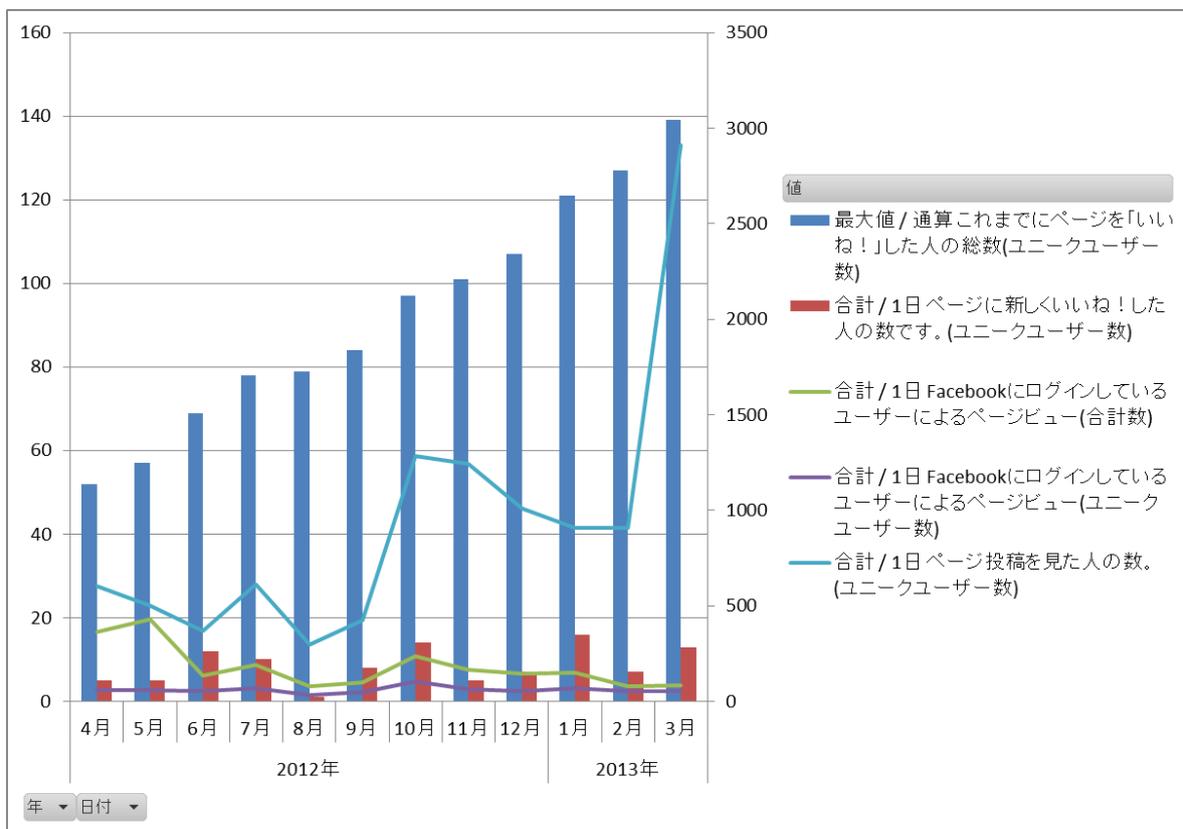
5.3.3. ライブラリー・リポーン(ブログ)

平成 22 年 10 月から平成 23 年 11 月まで、約 1 年間にわたり附属図書館が改修工事で変わっていく様子を、ブログにて、写真とメッセージで発信した。

5.3.4. Twitter, facebook

平成 23 年度から、アカデミック・リンク・センターと共通するアカウントを用いて、図書館のイベントのお知らせについて、Web ページよりもさらに詳細な情報を提供したり、台風接近時の臨時休館などの各種広報を行っている。

平成 24 年度 facebook の利用状況



5.3.5. YouTube

平成 23 年度から、アカデミック・リンク・センターと共通するアカウントを用いて、セミナーの動画や授業紹介動画を掲載し、外部へ公開している。

6. 情報発信・広報

6.1. 図書館員による研究教育発表等

6.1.1. 論文

<雑誌掲載論文>

平成 24 年度

島文子：千葉大学附属図書館(本館). 大学図書館研究 96, 49-58, 2012-12-00

米田 奈穂，竹内 比呂也：戦略的ツールとしてのパスファインダー：千葉大学附属図書館における「授業資料ナビゲータ」の取り組みと展開. 図書館雑誌 106(4), 237-239 (2012-04-00)

平成 23 年度

日岡 康恵，栗山 正光，谷 奈穂：活動状況[イベント参加報告]「第 1 回 SPARC Japan セミナー2011」に参加して

SPARC Japan news letter (11), 12-14, 2012-01

米田 奈穂：アカデミック・リンクという理想：本物のラーニング・コモンズをめざして. 館灯 50, 22-28, 2012-03-31

野田 英明，吉田 幸苗，井上 敏宏，片岡 真，阿蘇品 治夫：Shibboleth 認証で変わる学術情報アクセス

カレントアウェアネス (307), 4-7 (2011-03-20)

平成 22 年度

野田 英明：Shibboleth を用いた連携認証による電子リソース利用—千葉大学の事例から（特集 図書館ウェブサイトの展開）

図書館雑誌 104(6), 368-370, 2010-06

森 一郎：CURATOR と ROAT・CUWiC・UsrCom—千葉大学における機関リポジトリに関する諸活動（特集 機関リポジトリ）

日本農学図書館協議会誌 (158), 15-17, 2010-06

武内 八重子：第 5 回 DRF ワークショップ 2009 年，いま改めてリポジトリ

情報管理 52(11), 664-666, 2010

6.1.2. 講演・発表・講師派遣

平成24年度研修等実績一覧

研修等名称	研修先	所属等	氏名	日程
第8回学術情報ソリューションセミナーの講師	札幌医科大学	学術コンテンツ課図書系職員	野田 英明	7/20
機関リポジトリ新任担当者研修の講師	国立情報学研究所	学術コンテンツ課図書系職員	谷 奈穂	10/18～10/19
「文献との対話」講師	千葉大学	利用支援企画課図書系職員 学術コンテンツ課図書系職員 学術コンテンツ課図書系職員	武内八重子 野田 英明 千葉 明子	

平成23年度研修等実績一覧

研修等名称	研修先	所属等	氏名	日程
すぎなみ地域大学「図書館ボランティア講座」講師	杉並区立中央図書館	学術情報課図書系職員	森 一郎	6/8
第7回学術情報ソリューションセミナーの講師	札幌医科大学	情報サービス課図書系職員	野田 英明	6/24～6/25
機関リポジトリ新任担当者研修の講師	国立情報学研究所	学術情報課図書系職員	武内八重子	10/6～10/7
平成23年度公共図書館中堅職員研修の講師	千葉県立中央図書館	学術情報課専門職員	森 一郎	10/12～10/12
東海地区協議会第2回研修会の講師	中部大学	情報サービス課図書系職員	米田 奈穂	10/28～10/28
平成23年度連続講習会(近畿における機関リポジトリコミュニティ形成の支援、CSI領域3)	京都ノートルダム女子大学	学術情報課図書系職員	武内八重子	11/18
機関リポジトリ新任担当者研修の講師	国立情報学研究所	情報サービス課図書系職員	谷 奈穂	11/21～11/22
平成23年度図書館地区研修(九州・沖縄地区)の講師	水前寺共済会館グレース	学術情報課専門職員	森 一郎	11/30～12/1
日本体育図書館協議会研修会の講師	日本体育大学図書館	情報サービス課図書系職員	米田 奈穂	12/5
平成23年度連続講習会(近畿における機関リポジトリコミュニティ形成の支援、CSI領域3)	奈良先端科学技術大学院大学	学術情報課専門職員	森 一郎	12/9
愛媛大学図書館学術講演会の講師	愛媛大学図書館	学術情報課専門職員	森 一郎	1/22～1/24
学認シンポジウム2012	ベルサール飯田橋ファースト	情報サービス課図書系職員	野田 英明	3/5
「文献との対話」講師	千葉大学	情報サービス課図書系職員	米田 奈穂 野田 英明 千葉 明子	

平成22年度研修等実績一覧

研修等名称	研 修 先	所属等	氏 名	日 程
平成22年度学術ポータル担当者研修の講師	名古屋大学/国立情報学研究所	学術情報課図書系職員	武内八重子	7/30, 8/25~8/27
平成22年度第3回SPARCJapanセミナーの講師	国立情報学研究所	情報サービス課図書系職員	千葉 明子	8/24
平成22年度教育改革ICT戦略大会	アルカディア市ヶ谷	情報サービス課図書系職員	野田 英明	9/3
第12回図書館総合展フォーラム「RFIDによる新たな図書館マネジメントの可能性」の講師	図書館総合展会場	情報サービス課図書系職員	野田 英明	11/25
第12回図書館総合展フォーラム「学習・研究支援ツールRefWorksと新プラットフォーム」の講師	図書館総合展会場	情報サービス課図書系職員	野田 英明	11/25
第12回図書館総合展フォーラム「学認(GakuNin)のすゝめーシボレス認証で変わる学術情報アクセスー」の講師	図書館総合展会場	情報サービス課図書系職員	野田 英明	11/26
TRCライブラリーアカデミーの講師	TRC研修センター	学術情報課図書系職員	武内八重子	12/2
平成22年度目録システム講習会図書コースの講師	国立情報学研究所	情報サービス課図書系職員	岩井 愛子	12/15~12/17
DRF主題ワークショップ DRFARMSの講師	東京藝術大学	学術情報課専門職員	森 一郎	12/22
DRF技術ワークショップ in Asahikawaの講師	旭川医科大学	学術情報課専門職員	森 一郎(司会)	2/4
DRF技術ワークショップ in Asahikawaの講師	旭川医科大学	学術情報課図書系職員	武内八重子(講師)	2/4
DRF技術ワークショップ in Kumamotoの講師	熊本大学	学術情報課専門職員	森 一郎	2/18
学術認証フェデレーションシンポジウムの講師	国立情報学研究所	情報サービス課図書系職員	野田 英明	3/7

6.2. 情報リテラシー教育

図書館主催ガイダンス実績

上段はガイダンスの総数、下段()書きは授業連携ガイダンスの内数

授業連携ガイダンスは、各学部学科・グループ別講習会、普遍教育「情報処理」授業支援、

図書館学関連授業に対する支援を含む

		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
回数	本館	241 (66)	197 (76)	215 (72)	204 (75)	60 (46)	103 (67)
	亥鼻分館	32 (24)	30 (21)	26 (24)	25 (18)	19 (16)	22 (20)
	松戸分館	5 (4)	4 (2)	6 (4)	9 (5)	6 (5)	4 (3)
	合計	278 (94)	231 (99)	247 (100)	238 (98)	85 (67)	129 (90)
参加人数	本館	4,033 (3,021)	4,508 (3,889)	4,694 (3,935)	4,474 (3,906)	2,942 (2,748)	3,861 (3,524)
	亥鼻分館	743 (586)	845 (578)	683 (622)	569 (522)	607 (571)	710 (686)
	松戸分館	390 (170)	340 (108)	442 (170)	451 (410)	422 (415)	355 (340)
	合計	5,166 (3,777)	5,693 (4,575)	5,819 (4,727)	5,494 (4,838)	3,971 (3,734)	4,926 (4,550)

中期目標期間の実施状況経年データ(企画総務部企画政策課提出)による

平成24年度実施ガイダンス

本館

- ・学部学科・グループ別講習会(申込制)
- ・普遍教育『情報処理』授業支援
- ・図書館主催ガイダンス
 - ライブラリー・ツアー
 - クイックガイダンス MyLibrary 利用講習会
 - クイックガイダンス EndNote Web 利用講習会
 - クイックガイダンス 新聞データベース利用講習会
 - PsycINFO 講習会
 - Lexis.com 利用講習会

- SciFinder 利用講習会
- SciVerse Scopus 利用講習会
- レポート作成セミナー 講習会・ワークショップ
- 夜間ガイダンス

亥鼻分館

- ・学部学科・グループ別講習会(申込制)
- ・図書館主催ガイダンス
 - PsycINFO 講習会
 - EndNote Web 講習会

松戸分館

- ・学部学科・グループ別講習会(申込制)
- ・図書館主催ガイダンス
 - EndNote Web 講習会

6.3. 学術成果リポジトリ

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
コンテンツ件数 (累計)	20,448	24,179	28,485	38,997	88,059	88,618
アクセス回数 (／月)	11,882	18,512	15,755	283,618	316,654	673,903

中期目標期間の実施状況経年データ(企画総務部企画政策課提出)による

千葉大学学術成果リポジトリ(CURATOR)は、千葉大学において生み出された学術研究成果(学術論文、プレプリント、テクニカルレポート、学位論文、会議発表資料等)を電子的に保存し学内外に公開するインターネット上の発信拠点である。

構築までの経緯

平成14年度

- ・学術情報発信強化に向けてリポジトリシステムの構築を計画
- ・プロトタイプ・システムの開発に着手(平成14年8月～15年3月)

平成15年度

- ・試行運用を開始(協力者グループ対象)(平成15年4月～9月)
- ・附属図書館長の下に「学術情報発信のための協力者会議」設置(平成15年10月)

平成16年度

- NII 学術機関リポジトリ構築ソフトウェア実装実験プロジェクトに参加(平成16年6月～3月)
- ・館内学術情報発信支援ワーキンググループを設置(平成16年6月～)
- ・附属図書館運営委員会の下に「学術情報発信専門委員会」設置(平成16年12月～)
- ・「千葉大学学術成果リポジトリ運用指針」制定(平成17年2月図書館運営委員会)
- ・教育研究評議会にて承認(平成17年2月18日)、運用開始(平成17年2月)

平成17年度

- ・千葉大学学術成果リポジトリ(CURATOR)正式公開(平成17年7月)
- ・平成17年度国立情報学研究所最先端学術情報基盤(CSI: Cyber Science Infrastructure)次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業 学術機関リポジトリ構築連携支援事業の委託を受託し学内成果を電子化・公開(以後連続して平成18, 19, 20, 21年度も受託)

平成18年度

- ・学術情報検索エンジン Scirus と提携
- ・CURATOR への取り組みにおいて平成18年度国立大学図書館協会賞を受賞

平成19年度

- ・登録コンテンツが1万件(平成19年6月), 2万件(平成20年2月)に達する
- ・環境リモートセンシング研究センターの衛星画像データセットとの統合検索環境の実現(平成21年3月)

平成20年度

- ・博士論文の登録促進のため, 学生部を通じて論文提出者に対するリーフレット配布を開始(平成20年9月)

平成21年度

- ・学位論文の登録促進について, 大学院教育委員会で承認(平成21年12月)
- ・故萩庭丈壽薬学部名誉教授の業績である萩庭さく葉標本の画像データ(5万点余)登録について 萩庭標本データベース作成協力会と合意(平成22年2月)

平成22年度

移転・改修と, リポジトリサーバの不具合調査のため, 特記事項なし

平成23年度

- ・サーバメンテナンスのためサービスを一時中止(平成23年4-5月)
- ・登録コンテンツが5万件に達する(平成23年10月)
- ・萩庭さく葉標本画像データ5万点余の登録を完了(平成24年3月)
- ・「千葉医学会誌」について, 創刊の「一高志林」から約120年分のデータを登録完了(平成24年3月)

平成24年度

- ・博士論文の登録促進のため, 論文提出者に配布するリーフレットの英語化を実施(平成24年9月)

6.4. 附属図書館 Web サイト



(平成24年 4月リニューアル)

■松戸分館所蔵「江戸・明治期園芸書コレクション」の電子画像公開

平成 23 年2月に、千葉大学附属図書館松戸分館が所蔵している特色のあるコレクションのうち、江戸・明治期園芸書コレクションを、Web ページ上で公開し、外部からも閲覧が可能となった。

■ローカルサーバから web ホスティングへの移行

平成 23 年3月に、これまで独自で構築していた Web サーバーをホスティングサーバーへ移行した。

■デザインリニューアル

平成 24 年4月からの千葉大学におけるアカデミック・リンクに関する本格的なサービス提供に伴い、アカデミック・リンク・センターと共働する附属図書館の Web ページについて視認性の向上を図るため、Web ページのデザインをリニューアルした。

■英語ページ追加

平成 25 年3月に、留学生等の利用者の利便性向上のため、英語表記のページを作成した。また、このページに英語版の本館及び松戸分館の利用案内を掲載した。

6.5. CUFA, CURT

○CUFA

CUFA とは、多目的利用分散型学術成果等データベースシステム(Chiba University multi-use Faculty Achievement Database System)の略称であり、千葉大学の研究者が自分のデータを作成、保存・管理し、事務担当者は必要に応じてそのデータの収集、集計、加工を行うためのシステムであり、平成 17 年 9 月に開発された。このデータベース維持管理の業務は、もともと総務部の所管であったが情報部学術情報課に移管された。このシステムに関しては、データベースサーバ等の特別な設備は必要ないことがメリットであるが、ユーザインターフェースに多少問題があると学内から指摘があがっていた。

そのため、平成 21 年度には改善のための経費として学長裁量経費を要求するとともに、検討組織として情報化推進企画室の下に研究者情報管理システム検討専門部会(9 月 4 日内規制定)を立ち上げた。

同専門部会での検討に基づいて平成 22 年 3 月に研究者情報管理システムのプロトタイプ版を作成することができた。

○CURT

CURT とは、千葉大学研究者情報データベース(Chiba University Researcher Tracker)の略称で、CUFA から抽出した研究者のプロフィールおよび業績(学術成果)等の情報をインターネットを通じて 24 時間公開するシステムである。平成 21 年 3 月は、研究業績 52,342 件が検索可能となった。CUFA からの抽出データであるため、CUFA 自体の入力率を向上させることが課題となっている。

CUFA, CURT は平成 24 年度に学術国際部情報企画課に移管した。

7. アカデミック・リンク・プロジェクト

平成 23 年度にアカデミック・リンク・センターが設置され、平成 24 年度に図書館増改築が完成した。アカデミック・リンクの概念に基づく新しい学習環境を提供するため、教員と図書館員が 7 つのプロジェクトを共同で実施している。

7.1. レガシーコンテンツ再生プロジェクト

レガシーコンテンツ再生とは、すでに刊行されているパッケージ型メディア(図書やビデオ教材など)を電子的に再生させ、それらを学習において利活用するための環境を整備するプロジェクトである。学術的な刊行物を電子的な形式でアーカイブすることにより、電子書籍端末や POD(Print On Demand: オンデマンド印刷)を通じた提供が可能になり、学生や教員が多様な形態で学術的刊行物を永続的に入手できるようになる。

7.1.1 児童文学事典の電子的再生

レガシーコンテンツ再生の一つの先行事例として『児童文学事典』(日本児童文学学会編、1988 年、東京書籍)の電子的な再生を進めている。初版から 15 年経過していることもあり、本事典の電子化とあわせ改訂作業も進めている。

7.1.2 授業資料ナビゲータに掲載されている参考図書の電子化

授業の参考図書として教員が推薦する刊行物を中心に電子化を進めている。Web 公開している「授業資料ナビゲータ」に掲載されている図書リストから選定している。

7.1.3 次世代授業資料ナビシステムの開発

図書の電子版へのアクセスのポータルサイトの一つとして、Web で公開している授業資料ナビゲータのサイトが、手作業で作成されており、煩雑な作業が必要であり改善が望まれていたため、システムを構築し、資料リスト作成の省力化を進めた。

7.2 オンラインクラスルームプロジェクト

オンラインクラスルームプロジェクトでは、授業そのものを学習資源として活用するために、授業の動画配信を中心とした e ラーニング環境を整備する。

7.2.1 授業・セミナーの収録と配信

平成 24 年度前期は試行的に約 1 ヶ月分の授業を収録・編集し、その一部をラーニング・マネジメント・システム(LMS)を通じて配信した。その結果、理系科目で板書のみでの授業については、許諾処理が必要な著作物が授業動画に記録されておらず迅速な編集作業が可能であったことから、後期は理系 5 科目について半期を通じて収録し、LMSを通じて配信した。アカデミック・リンク・セミナー(後述)については、これまでのすべての回を収録・配信している。また、平成 25 年

度前期の教養展開科目等の授業紹介動画配信に向けて準備を進めた。

7.2.2 ALSA-TT(Technical Team)の運営

プロジェクトの遂行には、授業動画の収録・編集作業、さらに、収録した動画を配信するための Moodle の運用・更新、本プロジェクトやデジタルコースパックプロジェクトなどで開発したコンテンツの閲覧・活用を目的に附属図書館が貸出している端末の保守管理などの技術的支援が必須となる。ALSA-TT は、こうした ICT を活用した学習環境の整備を技術面から支援する活動を行っている。

7.3 デジタルコースパックプロジェクト

デジタルコースパックとは、刊行物の一部、教員の自作教材、あるいは学術論文の一部などを組み合わせて電子的にパッケージ化し、新たな授業教材を作成するための支援を行うプロジェクトである。さまざまな資料を組み合わせ手製電子教材の作成を支援するところに特徴がある。

7.3.1 デジタルコースパックのための著作権処理

著作権処理の事例蓄積を目的として、LMS を通じた授業外学習教材の提供のための使用許諾取得を行っている。著作権処理にあたって、以下のような作業上の問題点が明らかとなった。

第一に、学会・出版社によって権利者が著者と学会・出版社の間で不分明であり、許諾申請者(この場合千葉大学)の問い合わせに対して明確な対処をできない場合があること。第二に、権利の所在が明らかになっている場合であっても、許諾が得られることが期待されるにもかかわらず実際には不可能である場合があること。第三に、一つの授業あたりの、上記のような使用許諾申請の作業量が非常に大きなものとなること、の3点である。

7.3.2 物理演習問題集の電子化

多様な形態での教材の提供を目的として、LMS を通じた物理演習問題の電子化を行っている。対面授業に加えての LMS の導入は、授業外学習の促進において不可欠となりつつある。力学、電磁気学についての試行を行った。

7.3.3 デジタルコースパックの POD による提供の実験的試行

電子化された授業教材は、パーソナルコンピュータやタブレット端末を通してアクセスできるが、一方で、紙媒体での教材の入手も、一覧性の優位さや書き込みが容易であることから、少なからず要求があると考えられる。多様な形態での教材提供というコンセプトのもと、POD により電子化された教材を紙媒体で提供する実験的な試行を実施した。

7.4 「参加する学習」プロジェクト

アカデミック・リンクにより提供される人的支援の取り組みの一環であると同時に、この取り組みに参加することによる支援者としての学生自身の自律的成長を促す取り組みでもある。学習相談は、①補習教育的学習相談のみならず自律的学習者としての成長の支援を目的とすること、②図書館施設内で実施する特徴を活かした「コンテンツ」を活用した学習支援を行うことを基本の方針とし、学習相談に留まらない発展的な学習支援として位置付けた。

特に学習相談を中心とする学習支援を担当する Student Assistant を、ALSA-LS(Learning Support)と称している。学生の自律的学習者としての成長を促すアカデミック・リンクの諸プロジェクトの一環であり、さらにコンテンツの利用やさまざまな学習支援の選択肢と組み合わせることにより、学習環境のさらなる充実を期して行われるものである。

7.4.1 ALSA-LS による学習相談の基本方針

- ① 教室や学習室などの個室ではなく図書館施設内のオープンな場所で行う
- ② 自然科学分野の数学・物理・化学と文系分野の「レポートの書き方」の4分野を置く
- ③ 各分野を専門とする大学院生が ALSA-LS として学習相談を受ける
- ④ 学生相談室等との協力体制を整備し、学習相談を超えた学生支援を可能とする
- ⑤ 学習相談の記録用紙、利用者アンケート、業務日誌等を整備して情報を蓄積することでシステムの改善を図る
- ⑥ ALSA-LS は事前研修・事後研修(振り返り)に参加し、支援者としての気づきやシステムの課題と改善を全体で共有する

を基本的な実施方針として取り組むこととした。これらのうち⑤と⑥は、ALSA-LS が学習相談を受けて質問に対応する受動的な存在ではなく、相談者の学習過程を共有する支援者であり、そのことを通じて自分自身の成長とシステムの運営と改善にも参加する役割をもつ自律的な存在と位置づけたために実施したことである。PDCA サイクルによって、絶えず課題の明確化と改善を行うことを可能としている。また、学生相談室等の学内関係組織との緊密な連携が、中間振り返りの際には改善点の検討の際に有効に機能しつつあることも明らかになってきている。

7.5 「教育力」「学習力」向上プロジェクト

「教育力」「学習力」向上プロジェクトは、学生、教職員によるアカデミック・リンク機能についての理解と活用を促し、学習、教育にかかるスキルの向上を実現するものである。教育／学習の情報化に関する研修機会の提供、アカデミック・リンク・センターの活動成果の発信、アカデミック・リンク各プロジェクトのシンポジウム等の企画の全体調整、アカデミック・リンク・セミナーの継続的实施、全学 FD・部局 FD への技術的貢献等を実施するものとして位置付けられている。本プロジェクトでは ALSA-GS(General Support)による学生対象支援に取り組んでいる。

7.5.1 アカデミック・リンク・セミナー

セミナーの開催は、本プロジェクトの中心に位置づけられるものである。アカデミック・リンク・センターが千葉大学全学に対して、教育・学習の情報化に関する研修機会を提供するとともに、本センターの活動成果を広く社会全体に発信することを目的とする。アカデミック・リンク・セミナーとは別に、図書館関係の全国的フォーラム等に参加し、報告も行っている。

7.5.2 「1210 あかりんアワー」

平成 24 年 4 月より、「1210 あかりんアワー」(以下、あかりんアワー)を実施している。あかりんアワーは、千葉大学の学生と教職員の距離を縮めることを目的に実施しているショートセミナーである。12 時 10 分から 40 分までの 30 分間を利用して開催している。この名称は、開始時間とアカデミック・リンク・センターのマスコットキャラクターである「あかりん」に由来する。

プレゼンテーションスペースの広報としての意味も含めて、平成 24 年 4 月には、月曜日から金曜日のあいだ毎日開催し、5 月以降は、原則として、火曜日と金曜日の週 2 回を開催日としている。5 月以降の各回の内容は、「教員が研究の楽しさを語る」、「千葉大人(ちばだいびと)の意外な一面を知る」、「ブックトーク」、「ALSA カフェ」などを週替わりに行った。「研究の楽しさを語る」では、登壇者に紹介する図書・資料を 3～5 点ほど推薦してもらい、資料の推薦文をあわせて掲載したブックガイド(A4 サイズ1枚)を作成して参加者に配布している。さらに、推薦された資料とブックガイドは、附属図書館 N 棟 3 階ブックツリーに専用コーナーを設け、展示した。

7.5.3 全学および各部局の FD の e ラーニング化の検討

千葉大学における FD(Faculty Development)活動は、全学 FD 企画室の主催する全学 FD と各部局等が行う FD の二本立てで取り組まれている。本プロジェクトは ALSA-GS による学生対象支援に取り組んでいる。

7.5.4 図書館ポッドキャストの YouTube への移行

センターの発足以前より、リエゾン・ライブラリアンプロジェクトにより行ってきた取り組みに、図書館ポッドキャストがある。図書館ポッドキャストではポッドキャストによる各教員や司法試験合格者等へのインタビューなどの配信を行ってきた。アカデミック・リンク・センターの発足を受けて、このポッドキャストプログラムを YouTube に移行した。

7.6 情報利用行動定点観測プロジェクト

本プロジェクトの目的は、学生の学習行動と学習成果の関連を、A)情報利用行動の分析、および、B)学習・生活空間の利用状況の分析を通じて、継続的・横断的に検証することにある。より具体的には、A)において、アカデミック・リンクや附属図書館本館における学生の「情報探索行動」「情報端末・資料の利用状況」「図書館内での学習行動」等を分析し、B)において、大学内外における学生の「授業の履修・参加状況」「自宅学習の状況」「その他の生活空間・時間」等を分析するものである。下記の調査を実施している。

- 1 千葉大学学習状況・情報利用環境アンケート調査(2011年度/2012年度)
- 2 フォーカス・グループ・インタビューによる学習・情報利用行動実態調査
- 3 フォト・ボイスによる学習空間・情報利用行動調査
- 4 アクティブ・ラーニング・スペースでの図書利用状況調査(ブックトラック調査)
- 5 館内動態調査のための赤外線センサーの設置と分析 他

これらの調査は、千葉大在学生の日常的な学習環境・学習行動・生活時間・情報利用に関する基本的なデータを把握し分析することで、アカデミック・リンク設置前後の学生の学習行動の変化を、複数年にわたって検証するものである。

7.7 「新しい図書館員」プロジェクト

「新しい図書館員」プロジェクトは、学習に関与する「新しい図書館員」概念を確立するとともに、彼らを中心に教員/図書館員/学生の協働を基礎とする個別的学習指導モデルを構築し、評価することを目的としている。

7.7.1 情報リテラシースキル養成活動

情報リテラシースキル養成活動は、必要な情報を収集し使いこなす技術の獲得を支援する活動である。これらの養成活動の開催方法や内容は多岐に渡り、館内ツアー、利用案内、各種データベース講習会などの図書館主催ガイダンス、教員からの申込による学部学科グループ別ガイダンス、普遍教育「情報処理」授業支援、図書館学関連授業支援などを実施した。また教員、大学院生(ALSA-LS)、図書館員が協同でレポート作成セミナーを複数回実施し、そのうち1回については図書館員が、レポート作成方法についての講義の講師をつとめた。

7.7.2 アクティブ・ラーニング・スペースにおける学習支援活動

平成23年度での、情報リテラシー教育、授業資料ナビゲータ、ALSA-LSの試行などの実績を基盤として、平成24年3月のリニューアルオープン後にN棟アクティブ・ラーニング・スペースにおいて、新しい学習支援活動を開始した。教員によるオフィスアワー@AL、大学院生(ALSA-LS)による学習支援デスク、図書館員によるレファレンスデスクの3つをN棟2階に設置し、実践することにより、教員、学生、図書館員が協働して学生の学習をサポートする取り組みである。

7.7.3 分館におけるアクティブ・ラーニング支援環境の整備

平成24年7月中旬に、亥鼻分館と松戸分館にもアクティブ・ラーニング支援環境の整備を実施した。亥鼻分館では、従来からあったグループ学習室4室の机、椅子をキャスター付きのフレキシブルなものに更新した。松戸分館では、従来の新着雑誌スペースを改装して、新たにアクティブ・ラーニング・スペースを設けた。

7.7.4 ALSA-GS の活動

本館でのアカデミック・リンク及び附属図書館の各種活動の支援を担当する Student Assistant として, ALSA-GS を公募し, 各種ガイダンス等の業務支援, 企画補助, 附属図書館本館内での図書館業務の補助・支援等の業務を行った。

8. 地域・社会連携

8.1. 市民への公開

8.1.1. 入館者数

		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
登録者数	本館	1,233	1,156	1,210	1,072	996	1,430
	亥鼻分館	862	902	702	682	582	543
	松戸分館	16	31	41	54	45	34
	合計	2,111	2,089	1,953	1,808	1,623	2,007
	前年度比増減(%)	—	△1.0%	△6.5%	△7.4%	△10.2%	23.7%
入館者数	本館	11,336	11,562	11,693	11,105	10,751	28,238
	亥鼻分館	4,181	4,006	3,279	3,252	3,036	2,891
	松戸分館	304	203	216	371	461	557
	合計	15,821	15,771	15,188	14,728	14,248	31,686
	前年度比増減(%)	—	△0.3%	△3.7%	△3.0%	△3.3%	122.4%

8.1.2. 貸出冊数

		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
貸出冊数	本館	2,317	2,159	2,164	1,017	1,654	2,654
	亥鼻分館	14	84	57	53	80	61
	松戸分館	8	31	67	95	44	46
	合計	2,339	2,274	2,288	1,165	1,778	2,761
	前年度比増減(%)	—	△2.8%	0.6%	△49.1%	52.6%	55.3%

中期目標期間の実施状況経年データ(企画総務部企画政策課提出)による

8.1.3. 千葉県立図書館との相互協力件数

平成 18 年 4 月 30 日、「千葉県立西部図書館と松戸分館の相互協力協定」を締結。さらに平成 22 年 7 月 1 日、上位協定となる「千葉県立図書館と千葉大学附属図書館との相互協力に関する協定」を締結し、千葉県立図書館 3 館と千葉大学附属図書館 3 館の間で県立図書館の搬送車による相互利用サービスを開始した。

		千葉県立図書館への貸出冊数			千葉県立図書館からの借用冊数		
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
千葉大学	本館	19	97	147	150	38	129
	亥鼻分館	1	7	49	10	26	42
	松戸分館	8	10	3	22	56	32
	合計	28	114	199	182	120	203

8.1.4. 高大連携

本学では平成 13 年度から、千葉県内の高等学校と連携教育協定を締結し、本学で開講する授業の受講を認めている。附属図書館においても、本協定に基づく受講者を対象として図書館利用者カードを発行し、附属図書館の利用および図書の貸出を認めている。

開講年度	発行枚数
平成19年度	100
平成20年度	129
平成21年度	104
平成22年度	109
平成23年度	222
平成24年度	143

8.1.5. 千葉市図書館情報ネットワーク協議会

千葉市内の各種図書館の相互協力を通じて、情報提供能力を強固にし、図書館サービスの向上を図ると共に、学術研究及び生涯学習の発展に寄与することを目的とし、平成6年1月設立。毎年度、千葉市生涯学習センターその他で開催される「加盟館紹介展」への出展等に協力している。

平成19年度は千葉大学附属図書館が会長館を務めた。

平成24年度第2回研修会にてアカデミック・リンク・センター見学を開催。

8.1.6 千葉県大学図書館協議会

昭和47年11月全国図書館大会(日本図書館協会主催)が千葉県で開催されたことが発端である。昭和59年11月20日第19回千葉大学における開催から名称を「千葉県大学図書館協議会」と改めることとなった。

毎年1回当番校において講演等を伴って会議を開催し相互に連絡し協力することで互いの発展を図っている。

8.1.7 千葉市図書館協議会

千葉市の図書館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、図書館の行う図書館奉仕につき、館長に対して意見を述べることを趣旨として、昭和47年に設置された。千葉市図書館からの委嘱を受け委員を派遣。平成24年から副委員長を務める。

9. 他機関との連携

9.1 国立大学図書館協会

千葉大学附属図書館は、平成 23 年度～平成 24 年度に国立大学図書館協会の関東甲信越地区理事館を務め、学術情報委員会を担当した。附属図書館長が理事会に参加したほか、学術情報委員会の委員として会議に参加した。また、平成 23～24 年度は人材委員会に、平成 24 年度は教育学習支援検討特別委員会に、それぞれ委員を派遣した。平成 24 年 12 月には、国立大学図書館協会シンポジウムの会場校として、「ラーニング・コモンズ再考」と題したシンポジウムの開催に協力した。

9.1.1.1 国公立大学図書館協力委員会専門委員会への委員の派遣

平成 22～24 年度には、千葉大学から、国公立大学図書館協力委員会の以下に掲げる 3 つの専門委員会に、国立大学図書館協会からの個人指定による 3 名の委員を派遣して、国立大学附属図書館の様々な活動に貢献している。

- ①大学図書館協力ニュース編集委員会
- ②大学図書館研究編集委員会
- ③シンポジウム企画・運営委員会

9.1.1.2 著作権当事者協議会への委員の派遣

平成 22 年度には、国公立大学図書館協力委員会と著作権団体等との協議の場として設けられた著作権当事者協議会に委員を 1 名派遣した。

9.1.2 日本図書館協会との連携・協力

国立大学図書館協会からの機関指定委員として、社団法人日本図書館協会の評議員を務めている。

9.1.2.1 日本図書館協会への委員の派遣

平成 22 年度には、日本図書館協会の委員として、国立大学図書館協会からの個人指定で以下の委員会に委員を派遣した。著作権委員会は、本学の委員が委員長を務めた。

- ①日本図書館協会大学図書館部会
- ②日本図書館協会著作権委員会

9.1.3. 学術情報流通改革検討特別委員会から JUSTICE へ

平成 21 年度より、電子ジャーナル関係はコンソーシアム関連組織を統合し設置された学術情報流通改革検討特別委員会で扱うこととなった。平成 23 年度からは公私大のコンソーシアムとも統合

した大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)となり、交渉力強化、学術情報基盤の安定化を図っており、千葉大学も参加館となっている。

9.2 最先端学術情報基盤(CSI)構築推進委託事業

最先端学術情報基盤(CSI)とは、「我が国の大学等や研究機関が有しているコンピュータ等の設備、基盤的ソフトウェア、コンテンツ及びデータベース、人材、研究グループそのものを超高速ネットワークの上で共有する」ための基盤である。次世代学術コンテンツ基盤はCSIを構成する主要な柱のひとつであり、学術コミュニティにとって不可欠な学術コンテンツを確保し、その安定的な提供を保証するとともに、大学や研究機関等で生み出された教育研究成果を収集、組織化し、付加価値を付けて広く社会に発信するための情報基盤である。

国立情報学研究所(以下「NII」という。)ではCSI構築推進事業の一環として、機関リポジトリの構築と連携を促進するために、平成16年度に「機関リポジトリ構築ソフトウェア実装実験プロジェクト」を実施し、平成17年度から平成24年度には次世代学術コンテンツ基盤共同構築に向けた委託事業を実施した。本学が受託した事業は以下のとおりである。

平成16年度

国立情報学研究所 機関リポジトリ構築ソフトウェア実装実験プロジェクトに参加。

平成17年度

国立情報学研究所 次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業

学術機関リポジトリ構築連携支援事業 委託事業を受託。

(以下、同じなので省略。その内訳【領域1, 2】を記載する。)

平成18年度

領域1(コンテンツの拡充)

領域2:

- ・機関リポジトリの評価システム(主担当)
- ・研究コミュニティ創出支援(主担当)
- ・機関リポジトリコミュニティの活性化(分担:国際的協力)
- ・リンクリゾルバ対応システムの開発(分担)
- ・著作権ポリシー共有機能(分担)

平成19年度

領域1(コンテンツの拡充)

領域2:

- ・機関リポジトリの評価システム(主担当)

- ・研究者-情報の共進化型コミュニティ創出支援(主担当)
- ・機関リポジトリコミュニティの活性化(分担)
- ・リンク・リゾルバを通じた機関資源へのアクセス(分担)
- ・国内学協会等の著作権ポリシー共有・公開プロジェクト(分担)

平成 20 年度

領域1 (コンテンツの拡充)

領域2:

- ・機関リポジトリ評価のための基盤構築(主担当)
- ・e-Science 基盤構築のためのデータ・キュレーション機能拡充の実証実験(主担当)
- ・ユーザ・コミュニティ構築による持続可能なシステム改善の枠組みの形成(主担当)
- ・機関リポジトリコミュニティの活性化(分担)
- ・その他, SCPJ プロジェクト 2 など複数のプロジェクトに連携機関として協力

平成 21 年度

領域1 (コンテンツの拡充)

領域2:

- ・機関リポジトリ評価のための基盤構築(主担当)
- ・e-Science 基盤構築のためのデータ・キュレーション機能拡充の実証実験(主担当)
- ・ユーザ・コミュニティ構築による持続可能なシステム改善の枠組みの形成(主担当)
- ・機関リポジトリコミュニティの活性化 (DRF)(分担)
- ・その他, SCPJ プロジェクト 2 など複数のプロジェクトに連携機関として協力

平成 22 年度

領域2:

- ・機関リポジトリアウトプット評価の標準化と高度化(主担当)

領域3:

- ・機関リポジトリコミュニティ活性化のための情報共有(分担)
- ・機関リポジトリ担当者の人材育成(分担)
- ・その他, SCPJ プロジェクト 3 など複数のプロジェクトに連携機関として協力

平成 23 年度

領域2:

・機関リポジリアウトプット評価の標準化と高度化(主担当)

領域3:

・機関リポジトリ担当者の人材育成(分担)

・その他, 機関リポジトリコミュニティ活性化のための情報共有など複数のプロジェクトに連携
機関として協力

平成 24 年度

領域2:

・機関リポジリアウトプット評価の標準化と高度化(主担当)

領域3:

・機関リポジトリ担当者の人材育成(分担)

・その他, 機関リポジトリコミュニティ活性化のための情報共有など複数のプロジェクトに連携
機関として協力

9.3 デジタルリポジトリ連合(DRF: Digital Repository Federation: ダーフ)

DRF は、上記 9.2 に掲げた CSI 経費による活動として出発しているが、国内外における活動に広がりを見せつつあるため別項目として扱うこととした。

平成 18 年度に採択された CSI 事業領域 2 の「機関リポジトリコミュニティの活性化」(主担当: 北海道大学, 連携大学: 千葉大学, 金沢大学)を契機として、リポジトリ継続のための大学間等のゆるやかな連携活動を DRF と称することとして活動を開始した。千葉大学は、DRF 設立当初から深く関わり、現在も運営委員会やワーキンググループにメンバーを派遣し、その活動に関する協力体制を維持している。

9.3.1 DRFIC

DRF の普及と国際的な進展を図るため、次の国際会議が開催された。

- ①DRFIC2008 DRF International Conference 2008 -- Open Access and Institutional Repository in Asia-Pacific (Osaka University, 30-31 January, 2008)
- ②DRFIC2009 DRF International Conference 2009 -- Open Access Repositories now and in the future - from the global and Asia-Pacific points of view (Tokyo Institute of Technology, 3-4 December, 2009)

DRFIC2009 のポスターセッションにおいて、千葉大学は参加者の投票により 1 位を獲得した。

9.3.2 DRF ワークショップ

平成 24 年度まで以下の 9 回のワークショップを開催している。

- ①DRF1 第 1 回 DRF ワークショップ「機関リポジトリの構築に向けて: CSI 事業の意義とケーススタディ」(千葉大学, 平成 18 年 11 月 17 日)
- ②DRF2 第 2 回 DRF ワークショップ「機関リポジトリをデザインする: 設計とコンテンツ」(早稲田大学, 平成 19 年 2 月 8~9 日)
- ③DRF3 第 3 回 DRF ワークショップ「日本の機関リポジトリの今 2007」(パシフィコ横浜(図書館総合展), 平成 19 年 11 月 9 日)
- ④DRF4 第 4 回 DRF ワークショップ「日本の機関リポジトリとそのテーマ 2008」(パシフィコ横浜(図書館総合展), 平成 20 年 11 月 27 日)
- ⑤DRF5 第 5 回 DRF ワークショップ「2009 年, いま改めてリポジトリ」(パシフィコ横浜(図書館総合展), 平成 21 年 11 月 11 日)
- ⑥DRF6 第 6 回 DRF ワークショップ「これまでの 5 年間, これからの 5 年間」(北海道大学附属図書館, 平成 22 年 2 月 5 日)
- ⑦DRF7 第 7 回 DRF ワークショップ「これから我々がめざすものは何か」(パシフィコ横浜(図書館総合展), 平成 22 年 11 月 25 日)
- ⑧DRF8 第 8 回 DRF ワークショップ「学術へのオープンアクセスは大学図書館に何を免じ何

を任ずるのか」(パシフィコ横浜(図書館総合展), 平成 23 年 11 月 10 日(木))

⑨DRF9 第 9 回 DRF ワークショップ「学術雑誌の変貌:フィンテレポート, 新 BOAI イニシャチ
ブ, 英国最新事情」(パシフィコ横浜(図書館総合展), 平成 24 年 11 月 21 日(水))

10. 各館特記

10.1. 本館

10.1.1 ブックツリー展示

平成24年に開館したN棟に設置されたブックツリーは、見せる書架として作られており、各フロアの左右に高さ3メートル、幅9メートルの四面ずつの書棚でテーマ展示を行っている。

従来書庫の奥にあってなかなか人目につかなかったコレクションを排架(4階)するとともに、学生による「テーマ展示」(3階)、「1210あかりんアワー」と連携した展示(3階)、授業資料ナビゲータ掲載資料(2階)などを配置している。

10.1.2 展示企画「てとり文庫」

平成22年6月より、学生の学習意欲・読書意欲を促すことを目的とした図書のテーマ展示を継続的に行うことになり、「てとり文庫」が始まった。

学習支援に役立つテーマや時事的話題からあるテーマごとに図書を集め、一定期間新館1Fホールで展示した。改修工事後はN棟K棟をつなぐスペースに展示している。

誰でも手にとることができ、貸出も可能とする。学生からのフィードバックを感想ノートなどで募り、企画に反映させている。展示予定のテーマについて未所蔵の図書があれば選書に反映し、計画的に購入している。

平成22年

展示月	企画名	貸出回数	展示冊数	貸出冊数	割合%	1日あたり 入場者数
6月	キャンパスライフ	40	57	26	46	2,188
6月・7月	宇宙開発	17	51	14	27	2,394
7月・8月	アンネ・フランク	31	68	27	40	2,153
8月・9月	アジア(旅)	18	89	15	17	1,167
9月・10月	坂本龍馬	1	63	1	2	1,106
10月・11月	絵本	42	121	32	26	1,559
11月・12月	シヨパン生誕200年	18	75	15	20	1,447
12月・1月	ノーベル賞	39	75	26	35	1,458
1月・2月	論文・レポート	44	82	35	43	1,606
2月・3月	映画	22	75	17	23	1,084
3月・4月	歌舞伎	22	78	15	19	1,125

平成23年

4月・5月	こころとからだ	74	111	51	46	1,505
6月・7月	情報リテラシー	16	67	13	19	1,999
10月・11月	論文・レポート	115	130	71	54	1,265
12月・1月	国際森林年	26	110	20	18	1,355
2月・3月	震災・原発	46	137	42	31	1,214

平成24年

5月・6月・7月	新しい図書館	37	71	24	34	2,237
8月・9月・10月	国際ボランティア・留学	56	113	38	34	1,270
11月・12月・1月	世界遺産	54	100	34	34	1,740
2月・3月・4月	食育	43	142	34	24	1,282

10.2. 亥鼻分館

10.2.1. 古医書コレクションの電子化について

古医書コレクションの主体は、江戸時代から明治時代初期に出版・書写された医書で、和方、漢方、蘭方、洋方など多岐にわたる。また医学以外では、天文、和算、文学、史書等の書籍も若干含まれている。

千葉大学附属図書館亥鼻分館では、平成19年度より継続して千葉医学会から助成をいただき、「千葉大学附属図書館亥鼻分館所蔵 古医書コレクション」の撮影を行い、資料の画像をWeb上で公開してきた。

平成19-24年度 電子化資料一覧			
資料名	巻数	著者	出版年
医家千字文	1	惟宗 時俊	永仁4年11月
医事感問	2	吉益 東洞	明和6年
医断	1	吉益 東洞, 鶴 元逸	文化6年
一本堂薬選	3	香川 修徳	享保19年
医臈	3	多紀 元簡	文化6年
医範	1	吉益 南涯	文政8年10月
医範提綱	3	宇田川 玄真	文化2年
医範提綱内象銅板図	1	宇田川 榛斎	文化5年3月
医方口訣集	3	土佐 道寿	延宝9年
解屍實写図巻	1	不明	不明
回春序鈔	3	管 玄洞	万治3年
解臈図賦	1	池田 冬蔵	文政6年
眼目明鑑	6	杏林庵 医生	宝永4年5月
鳩慮模斯解体譜	1		文政4年[跋] [文政9年]
広恵濟急方	3	多紀 元恵	寛政2年
校正・病因考	2	後藤 衡陽	文化12年
察病亀鑑	3	青木 浩斎	安政4年
察病指南	1	施 桂堂	正保3年
産科探頷図訣	2	水原 義博	天保6年
産術内外秘訣	1	三宅 春齡/記	天保7年
重訂解体新書	13	大槻 玄沢	文政9年7月
小児活法	1	松下 元真	正徳3年
聖功方(授蒙聖功方)	2	曲直瀬 道三	慶長5年

青囊珍珠	3	江馬 天江	安政 4 年
蔵志	2	山脇 東洋	宝暦 9 年
治方佩玦	1	能条 玄長	文化 9 年 5 月
吐方考	1	永富 独嘯庵	宝暦 13 年
内治全書(扶氏経験遺訓)	1	扶歇蘭度	安政 4 年 8 月
難經本義	2	滑 寿	元禄 3 年
能毒	1	曲直瀬 玄朔	正保 2 年 3 月
病学通論	3	緒方 洪庵	嘉永 2 年
腹診録	1	和田 東郭	嘉永 3 年
扶氏診断	3	山本 節庵	安政 5 年
婦人臓図	1	菅原 誠意	安永 3 年
青眼医方	1	馬島清眼	筆写本
大和本草諸品図	3	貝原益軒	正徳 5 年
眼科新説	1	(ポンペ)邦百氏	筆写本
建殊録	1	吉益東洞	宝暦 13 年
七新薬	3	司馬凌海	文久 2 年
牛痘小考	1	檜林宗建	嘉永 2 年
本朝医考	1	黒川道祐	寛文 3 年
扶氏経験遺訓薬方	2	フーフェランド/著緒方 洪庵/訳	安政 4 年
病名集	1		筆写本
婦人病論	6	船曳修徳(卓堂)	嘉永 3 年
眼科新書	6	杉田立卿	文化 12-13 年
通用古方詩括	1	猪飼可久軒	万治 3 年
闇目口伝抄	1	堀江秀利, 雲正観善	筆写本原著 永禄 13 年
目病眞論	1	中目禰山	嘉永 3 年
医事文化資料	錦絵等		江戸~明治初期
Iconographie Ophtalmologique	1	J. Sichel	1856
審視揺函	6	傳 仁宇	原著崇禎 17 年
救荒本草	9	小野 蘭山	寛政 11 年
産論(子玄子産論)	2	賀川 玄悦	安永 4 年
蘭方枢棧	5	小森 玄良/訳	文化 14 年
西洋医事集成宝函	1	橋本 宗吉/訳	文政 6 年
養生法	2	松本 良順	元治元年
外科医法	9	佐藤 尚中	慶応元年

内科撰要	15	宇田川 玄随/訳	文政 9 年
泰西疫論	4	新宮 涼庭/訳	天保 6 年
病因精義	10	小森 桃塢	文政 10 年
解体新書	5	杉田 玄白	安永 3 年
虎狼痢治準	1	緒方 洪庵	安政 5 年
新刊黄帝明堂灸経	1	宝 桂芳	不明
全体新論	1	合 信	咸豊元年
共立病院規則	1	桑田 立斎	嘉永 2 年
瘍科新選	5	杉田 錦腸(立卿)	天保 3
引痘要略解	1	桑田 立斎	嘉永 2
引痘要略解	1	桑田 立斎	嘉永 2
皇国名医伝	3	浅田 宗伯	嘉永 4
假齡小児方	1	曲直瀬 道三	永禄 11
鍼道発秘	1	葦原 英俊	天保 5
御膳本草	1	渡嘉敷 親雲上	天保 3
妙薬手引草	1	申斎 独妙	天明 3
和蘭医方纂要	5	江馬 元弘	文化 14
蔓難録	5	龍 洲柘, 柘植 彰常	享和 1
斯篤魯黙児砲痰論(stromayay-)	2	佐藤 尚中	慶応 1
臟腑真写 解体発蒙	5	三谷 公器	文化 10
無冤録	2	王興	正統 3
洗冤録	4	宋慈	乾隆
常房総採薬録	1	内山 覚中	享和 4

平成 25 年度 電子化予定資料一覧

資料名	巻数	著者	出版年
設里烏私函	1	セリウス	(不明)
難経本義諺解	12	岡本 為竹	宝永 3
眼科摘要	9	ポンペ 著, 佐藤 舜海校	明治 2
和蘭眼科新書	5	プレんキ, 杉田 立卿	文化 12
十四経絡發揮和解	4	岡本 一抱子	元禄 6
奇魂	2	佐藤 民之助	天保 2
眼目暁解	1	根来 東叔	文化 14
馬嶋眼科方書	1	尾州 大一坊	永正 11

撥翳鍼訣	2	鈴木 章(道順)	嘉永元
皇国医系	1	万年 櫟山(万年 純)	文久元
眼目精要(星)	1	藤井 見隆	享保 11

10.2.2 特定非営利活動法人日本医学図書館協会への参加

医学図書館協会による電子ジャーナルコンソーシアムに参加することにより、「ProQuest Health and Medical Complete」,「EBSCO Cochrane Collection Plus」等を有利な条件で契約している。また、平成 25 年度中に千葉大学附属図書館本館 I 棟を会場として、「第 20 回医学図書館員基礎研修会」(平成 25 年 8 月 26 日(月)～8 月 28 日(水))の開催を計画。

10.2.3 診療ガイドライン作成支援

先端研究助成基金「日本の高年初産婦に特化した子育て支援ガイドラインの開発」(看護学研究科 母性看護学教育研究分野)への文献検索協力について平成 25 年度の実施を計画。

10.3. 松戸分館

10.3.1. 千葉大学附属図書館松戸分館江戸・明治期園芸書コレクションの電子化

園芸学部 100 周年記念展示会において紹介された資料について、画像電子化を進めることで、千葉大学を代表する園芸書電子化コレクションの構築を目標とする。

平成 22 年度事業

(平成 21 年度からの継続事業)

ファイル構成: 保存用画像, 公開用画像 各 1 式

電子化画像: 4 点 17 冊 計 732 枚

公開閲覧メニュー(基本モデル): 1 式 (Contents View Book 対応)

公開用キャプション作成: 松戸分館

公開中電子化タイトル一覧(内容)(平成 25 年度現在)

1	花菖培養録草稿(花菖蒲改良の歴史 自筆彩色図版)
2	古歌僊楓集, 新歌僊楓集, 追加楓集 (楓図譜 古歌僊楓集, 新歌僊楓集, 追加楓集の三部で 100 品種収載 彩色図版)
3	三都一朝(江戸・大坂・京都の名花 84 点収載 彩色図版)
4	花壇朝顔通(変化朝顔 180 余品を分類 代表的な品種について彩色図版)
5	朝顔譜(朝顔品評会 48 点収載)
6	都鄙秋興(変化朝顔 122 品種収載 彩色図版)
7	金生樹譜別録(松, 柳, 梅の銘品の紹介, 挿木など繁殖方法, 盆栽の育成環境を詳述)
8	草木奇品家雅見(奇品(ねじれ, 矮化など)・斑入り植物図譜 512 種収載)
9	菊花壇養種(菊専門の栽培書 図版あり)
10	橘品類考 前編(からたちばな 70 余品を紹介 うち 16 品の彩色図譜)
11	松葉蘭譜(松葉蘭図譜 122 品種を紹介 うち 60 品種の彩色図版)
12	草木育種(植物栽培の啓蒙書。上巻は栽培一般の総論, 下巻は植物個別の各論)
13	草木錦葉集(斑入り植物 1000 品の写生と, 植物の特性や栽培を記した書)
14	俳諧季寄図考草木(俳諧で取り上げられる植物の写生をもとに, 月単位にて構成された書)
15	絵本野山草(絵師により描かれた植物図譜。マリーゴールドやポピーなど外来植物も収載)

現在調査中タイトル一覧(平成 23 年度電子化済, 非公開)電子化画像 5 点 16 冊 計 576 枚

1	花壇綱目 (天和一年(1681)に作られた最初の園芸書。170 種もの草花を季節ごとに紹介)
2	葡萄樹栽培新方(Dickerman の How to make the farm pay より Chap.17 を翻訳したもの)
3	薔薇培養法(Henderson の Practical Floriculture より Chap.19 を翻訳したもの)
4	菓木栽培法(明治 8 年出版の藤井徹による果樹栽培書)
5	葡萄培養法(育種家, 小澤善平による著書。A.S.Fuller 著 Grape Culturist の邦訳摘録)

(参考資料)平成 22 年度千葉大学附属図書館自己点検・評価の達成度

大項目1 管理運営

<評価と指摘事項>

管理運営についての段階評価は、非常に良好、おおむね良好となっている。平成 21 年度時点の組織体制は、情報化推進企画室・専門部会の体制、館長・分館長の体制、事務局組織の部課体制による複雑なものであったため、各専門部会の役割と位置づけが必ずしも明確でないとの指摘や、専門部会の中には会議の開催実績からみて機能が不明確なものもあるとの指摘があった。また、アカデミック・リンク・センター設置に向けてさらに事務組織の見直しを図り、さらには図書館と同センターを含めた運営組織全体の見直しが必要であるとの提言と、学生も参画する双方向型の運営が必要であるとの提言があった。

<対応状況と達成度>

平成24年度現在、専門部会については、全学的な図書館サービスに関する協議を行う図書館専門部会と、全学における学術資料の整備・提供に関する協議を行う学術資料専門部会の二つに整理されている。会議は、協議事項が発生する都度随時開催されており、定期的な開催とはしていない。また、事務局組織については、事務局組織の一部ではなく、図書館事務局として独立した。このことにより、図書館とアカデミック・リンク・センターを支える事務組織体制が明確になった。学生も参画する双方向型の運営は、組織体制としては整備していないが、「館長を囲む会」やアカデミック・リンク・センターの学生との懇談会を開催したり、投書により学生からの意見聴取を行うことによって、学生の要望を最大限取り入れた運営を行う努力をしている。具体的には、開館時間の延長要望などについて、学生の声を取り入れて、運営の改善を図ってきている。

大項目2 予算・経費

<評価と指摘事項>

予算・経費についての段階評価は、おおむね良好とやや不十分が拮抗している。不十分な点として、図書館資料費、図書館運営費の大学総経費に占める割合が、全国平均を下回っていることが指摘されており、全国平均に近づける努力の必要性が強調されている。そのための方策として、運営コストの削減と外部資金等の獲得が提言されている。さらに、図書館経費の確保策として、全学共通経費や競争的資金の間接経費の充当割合を増大させるなどの方策の検討や、図書館運営費における人件費の効率的な執行に関して、定型的業務等の外部委託を含めた総合的・包括的な検討の必要性が言及されている。

<対応状況と達成度>

平成22～23年度の時点でも、図書館資料費、図書館運営費の大学総経費に占める割合は全国平均を下回っており、状況を改善できていない。運営コストは、資料費、運営費とも平成22年度に一旦縮小しているが、その後再び増大している。提言された図書館経費の確保策については、いずれも実行していない。

大項目3 施設・設備

〈評価と指摘事項〉

施設・設備についての段階評価は、非常に良好、おおむね良好とやや不十分に意見が分かれている。平成23～24年度の本館増改築を歴史的な出来事と捉えて高く評価するとともに、新しい施設・設備を使用して利用者いかに充実したサービスを提供できるかということの重要性について提言している。また、新館(L棟)の改修のための概算要求を早期に行うことについても言及されている。

〈対応状況と達成度〉

平成23～24年度の本館増改築が完了し、新しい施設・設備環境の中で、利用者に向けた新たなサービスを開始しており、利用者いかに充実したサービスを提供できるかという提言については、十分に達成していると考えられる。また、平成24年度補正予算により、L棟の改修工事が始まっており、予算面についても提言内容を達成している。

大項目4 学術情報資源

〈評価と指摘事項〉

学術情報資源についての段階評価は、おおむね良好として全員一致しており、本学経営層の理解のもとに安定的に学術情報資源を提供してきたことが評価されている。電子ジャーナル・電子ブックの経費確保とアクセス数の解析が今後の課題として提言されている。また、視聴覚資料については、充実しているとは言えないとして、拡充が希望されている。

〈対応状況と達成度〉

電子ジャーナル・データベースは引き続き安定的に提供できるよう努力しており、電子ブックも毎年度拡充を行っている。電子的資料のアクセス数については、平成24年度に統計を取りまとめた。また、視聴覚資料については、十分な拡充はできていない。

大項目5 サービス

〈評価と指摘事項〉

サービスについての段階評価は、非常に良好、おおむね良好となっており、職員が減少する中で、サービスの向上に努めていることが高く評価されており、特に授業資料ナビゲータやポッドキャストの作成は、先導的な取り組み例とされている。限られた人的資源の中で、より効果的なプログラムを制作するための工夫が必要であるとの提言があった。また、教育活動と直結したサービスや学生の自学自習を支援するためのサービス体制の整備や e-learning への取り組みの中での教材作成・整理・提供に関する協力等の必要性についても言及されている。

〈対応状況と達成度〉

限られた人的資源の中でより効果的なプログラムを制作するための工夫については、事務組織の改編とプロジェクト体制による各種プログラムの遂行により実現している。また、このような体制の中で、教育と直結したサービスや学生の自学自習を支援するためのサービスを展開しており、教材作成・整理・提供についても取り組みを進めている。

大項目6 情報発信・広報

〈評価と指摘事項〉

情報発信・広報についての段階評価は、非常に良好、おおむね良好となっており、特に図書館員による活発な研究教育発表が評価されている。一方、学術成果リポジトリの登録数の伸びの鈍化への対応や、附属図書館 Web サイトのリニューアル・見直しに関する提言がなされている。また、研究者情報システム(CUFA・CURT)について、全学的検討の中で今後のあり方を検討する必要があるとされている。

〈対応状況と達成度〉

図書館員による研究教育発表については、平成22～24年度も引き続き積極的に取り組みを進めており、講師派遣、研修参加も奨励している。学術成果リポジトリへの平成22～24年度登録数は順調に増加しており、アクセス回数も飛躍的に増大している。また、研究者情報システムについては、全学的な検討の中で学術国際部情報企画課に移管された。

大項目7 地域・社会連携

〈評価と指摘事項〉

地域・社会連携についての段階評価は、おおむね良好とやや不十分に分かれている。不十分な点として、地域連携の方針が明確ではなく、積極的取り組みへの努力がわかりにくい点が挙げられている。将来像を明確にしつつ、地域に開かれた図書館づくりへのより一層の工夫をすべきことや、千葉市内や千葉県内の他大学等図書館との関連協議会での活動を強化推進すること

が提言されている。また、どのような本が一般市民に利用されるのかというデータ分析の必要性についても言及されている。

〈対応状況と達成度〉

一般市民への開放については、登録者、入館者ともに本館のリニューアルオープン後に飛躍的に増大しているが、地域連携の方針や将来像については、現在も課題である。また、一般市民に利用される本に関するデータ分析は行っていない。

大項目8 他機関図書館との連携

〈評価と指摘事項〉

他機関図書館との連携についての段階評価は、非常に良好、おおむね良好と高く評価されている。特に国公立大学図書館協力委員会の委員長館として、様々な活動を通じて全国の大学図書館と緊密な連携を行ったことが大きな実績として評価された。ただし、図書館での本務とのバランスを保つことに留意するよう提言されている。

〈対応状況と達成度〉

国立大学図書館協会および国公立大学図書館協力委員会の活動については、理事館、委員長館の役割を終えたことにより、縮小した。附属図書館の本務とのバランスを取りながら、各種委員会に参加することで、実績を積み上げている。

大項目9 各館特記

〈評価と指摘事項〉

各館特記についての段階評価は、非常に良好、おおむね良好とされており、本館の所蔵資料展や企画展、各分館の貴重資料電子化について高く評価されている。一方で、それらの活動に係る人出と経費を捻出、獲得する努力を行うべきことが提言されている。

〈対応状況と達成度〉

本館において行われていた所蔵資料展については、リニューアルオープン後に展示会専用スペースがなくなったため、大規模な企画展としては実施しなくなった。代わりにブックツリーにおける展示会や展示ケースによる小規模な所蔵資料展を実施している。また、とり文庫によるテーマ別図書展示を頻繁に実施している。各分館における貴重資料の電子化は引き続き実施し、コレクションとして公開している。電子化は、亥鼻分館が外部資金を、松戸分館が部局経費を基にして行っており、経費獲得に引き続き努力している。

大項目 10 総括

〈評価と指摘事項〉

総括についての段階評価は、非常に良好、おおむね良好である。予算や人員の削減にもかかわらず、学習支援や学術情報提供を含む質の高い利用者サービスを行ったことが高く評価されている。さらに、附属図書館研究開発室と連携した図書館員による成果発信や、学術成果リポジトリの構築・運用などの先導的な取り組み、他機関図書館との連携についても高い評価があった。その一方で、より効率的な運営に努め、施設・設備の改善や学術情報資源の整備に取り組む必要があるとの提言があった。また、PDCA サイクルを確立していくことが今後の運営にとって重要との指摘や、IT 化の進展の下での利用者サービスのあり方を含め、図書館のあるべき将来像について検討する必要があるとの指摘もあった。

〈対応状況と達成度〉

施設・設備の改善については、平成22～23年度の増改築と、平成25年度からのL棟改修により、本館ではおおむね達成できる予定である。分館については、予算要求を継続する必要がある。学術情報資源の整備については、学術資料専門部会を中心としてよりよい方策の検討を進めている。また、PDCA サイクルの確立については、千葉大学の中期目標計画に基づき進めている。図書館のあるべき将来像については、アカデミック・リンク・センターとの連携を軸にして検討している。

(参考資料) 国立大学法人千葉大学 年度計画 図書館関係部分抜粋

平成22年度

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

(1)教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置

◆各学部、研究科(学府)は、現行の科目の中でアクティブ・ラーニングの手法を取り入れた授業や ICT を活用した授業の企画・実施状況について調査し、改善策を検討する。また、ICT 活用のための広報活動を積極的に展開し、推進を図る。

(2)教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

◆多様な学生のニーズに対応した「学生選書」を実施する。また、普遍教育教養コア科目を中心とした授業資料ナビゲータの充実やポッドキャストによる非来館学生へのアプローチ等により、学生の学習活動を支援する。さらに電子的資料の今後の在り方と利用の促進について検討し、学習に必要な電子的資料の利用環境を向上させる。

2 研究に関する目標を達成するための措置

(1)研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置

◆学会発表、論文発表等による学術活動に加えて、プレスリリース、ウェブサイト等によって、研究成果をよりわかりやすく社会還元することを推進するとともに、研究成果等のデータベース化を推進するために情報収集システムを改善し、研究成果を広く社会に発信する体制を整える。

V その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置

1 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置

◆キャンパスのフレームワークプラン(マスタープラン)に基づき、附属病院、附属図書館、総合校舎、医薬系総合研究等の整備・改修を着実に進める。また、建物状況調査に基づく劣化度判定・点数評価を実施し、計画的に建物の維持管理及び改修等整備を行う。

平成23年度

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

(1)教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置

◆各学部、研究科(学府)は、現行の科目の中でアクティブ・ラーニングの手法を取り入れた授業や ICT を活用した授業の企画・実施状況の改善策について具体的な実施計画を策定する。また、教育企画室及び普遍教育企画室は、FD 推進企画室と連携して、ICT 活用のための広報活動の積極的展開を継続する。さらに、課題探求能力を備えた「考える学生」を創造することを目的としたアカデミック・リンク・センターを設置する。

(2)教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

◆附属図書館は、学生用図書のパランスの良い分野別整備とデジタル資料の整備を進める。またアカデミック・リン

ク・センターと連携した資料整備や学生の情報リテラシースキルの涵養に努める。

2 研究に関する目標を達成するための措置

◆各部署は、研究成果をより分かりやすく社会還元することを推進する。また、附属図書館は、論文発表等による学術活動、研究成果等のデータベース化を推進するために継続的に情報収集システムの利用を拡大し、研究成果を広く社会に発信する体制を整える。

V その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置

1 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置

◆キャンパスのフレームワークプラン(マスタープラン)に基づき、附属病院、附属図書館等の整備・改修を着実に進める。また、建物状況調査に基づく劣化度判定・点数評価を実施し、計画的に建物の維持管理及び改修等整備を行う。さらにフレームワークプランを発展させた千葉大学キャンパスマスタープラン 2011 を策定する。

平成24年度

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

◆各学部、研究科(学府)は、現行の科目の中でアクティブ・ラーニングの手法を取り入れた授業や ICT を活用した授業の企画・実施状況の改善策について具体的な実施計画を策定する。また、教育企画室では、FD 推進企画室及びアカデミック・リンク・センターと連携して FD 等を行うとともに教育の情報化の基本方針について検討する。さらに、アカデミック・リンク・センターは、新しい学習空間の提供、新「授業資料ナビゲーター」作成システムの運用及び ALSA(Academic Link Student Assistant)による学習支援等を開始する。

(2)教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

◆附属図書館は、授業に密接した資料(デジタル資料を含む)の整備を体系的に進める。またアカデミック・リンク・センターと連携し、学習支援を強化する。

2 研究に関する目標を達成するための措置

(1)研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置

◆各部署は、研究成果をよりわかりやすく社会還元することを推進する。また、研究者情報管理運営委員会を組織し、各部署での研究者情報データベース(CUFA)の入力促進を図るとともに、利用拡大を促進する。

平成 25 年度 千葉大学附属図書館外部評価委員会報告書
平成 2 6 年 3 月

編集発行： 千葉大学附属図書館
〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町 1-33
Tel :043-290-2243
Fax :043-290-2255
<http://www.LL.chiba-u.ac.jp/>